

七和名所圖會

深土郡
下依勢郡

一

ル 4
5326
1



門ル 4
號 5326
卷 1



愛語の大和乃國也

神武帝のそとあそ都るたさ

せぬひしよ聖代りの終とあひる

ゆつあふふ倍り終規様よあひる

茂のほろ功あをこの世氣賢今

新共衛

分類 73
番号 51(9)
通番

49-1887

糸女孝は不あつて山ありて申
平地をひくく着脚宮池の河より
わらわはくは人傑子地靈より爰
秋軍湘夕ある若阿りて名不古流
故家道信流風まそく海あり
多つ子と書きてひとく画より物こ

あやふふとわらわしそ若平巻と
一 大和國會と名流とたふ現
女子の目をよるふことと志むと然と
あゝんや實と何れ家の好士と
とわらわはくは志世一と梓小
危のほ正木乃嘉流とふた

流たふ繁松月葉のままを
 此書に在りおるふるは
 まゝの形ふふとふと

寛政辛亥書

伏原正二位清原宣條卿

伊集院



大和名所圖會卷之一

添上郡南都之部目錄

大和國號之解
 春日社
 内院小社二座
 舞殿
 一位橋
 遷殿
 布生橋
 春日若宮
 紀伊祠
 拜之屋
 和之屋
 渡之屋
 但馬屋
 竹之屋
 奈良之記
 中院小社六座
 飛來天神
 鹿走
 二位橋
 南門
 酒殿
 内院小社通合神
 居石
 南都之盃觴
 直會殿
 林橋庭
 鳥居
 影向石
 御供所
 外院小社
 拜殿
 五箇屋
 椿之房
 内侍房
 春日野
 幣殿
 御手洗川
 聖の床
 如意石
 俊喜櫻
 廣願寺
 橋
 上之屋
 巳二

大釜
若狭井
鎮守八幡宮
勅封倉
劔墳
眞寸川
東南院
野守鏡
蝙蝠窟

念佛堂
如月瀧
講堂の躰
戒壇院
後玄祠
詫宣池
景清門

良辨杉
法華堂
日向山
玄武山
文遺地蔵
北向荒神
氷室祠
五百立祠

二月堂
三昧堂
虚空海寺
眞言院
飛火孫
飯盛山

經藏
水屋社
長尾祠
春日山
若宮御旅所
車屋殿
名燈壇
櫻本祠
外院小社八座
借香山
宅在春日
高山嶽
東大寺大佛殿

釘の澤
牛石
日月般氷室舊蹟
大鳥居
若消澤
五位橋
神垣森
御先石
本宮嵩
尾上官
好笑山
名銅燈爐

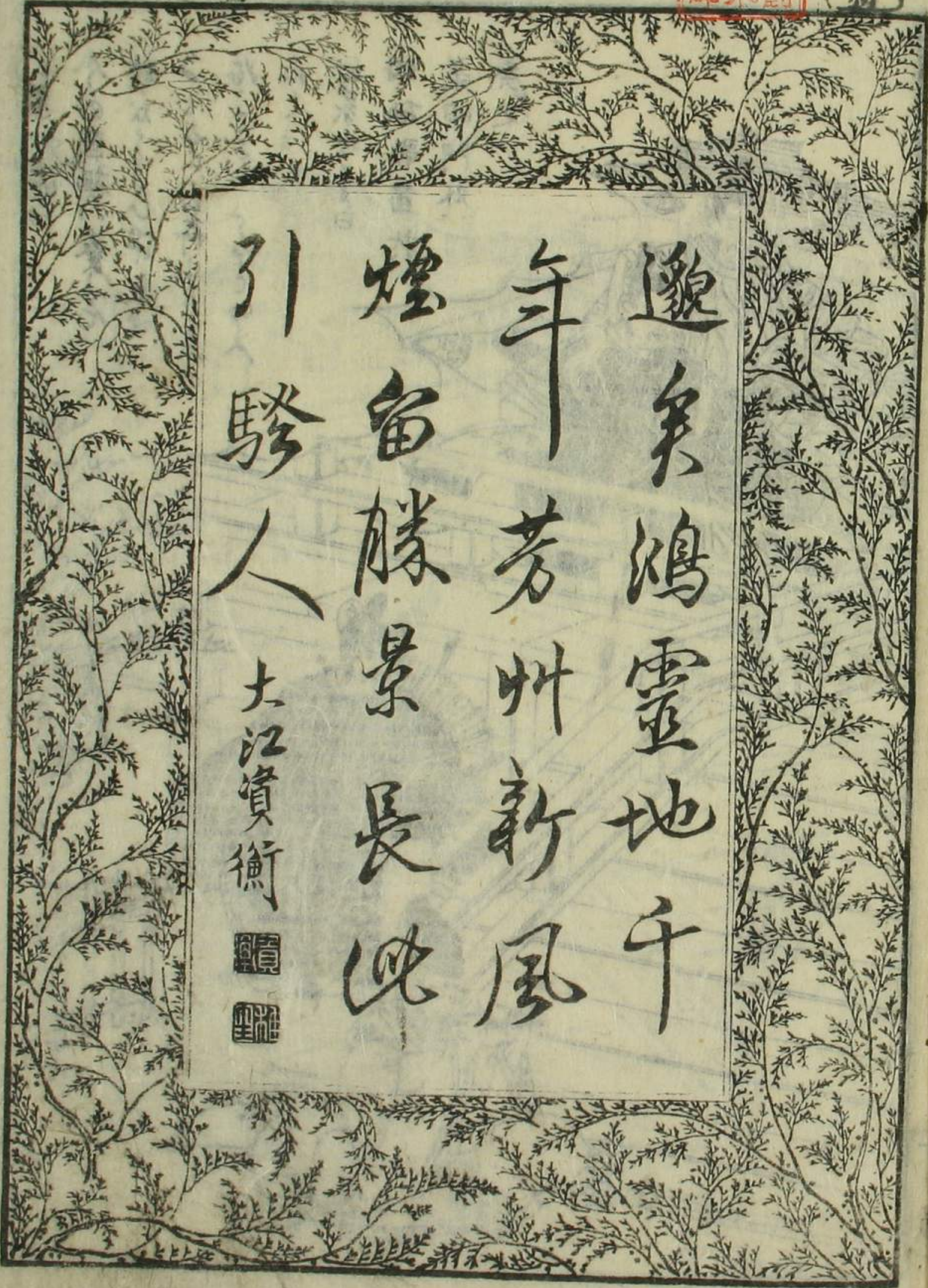
春日祭圖
名燈壇
馬出橋
率川
二鳥居
着到殿
みづき川
高圓山
香山
若艸山
籍翁杖跡

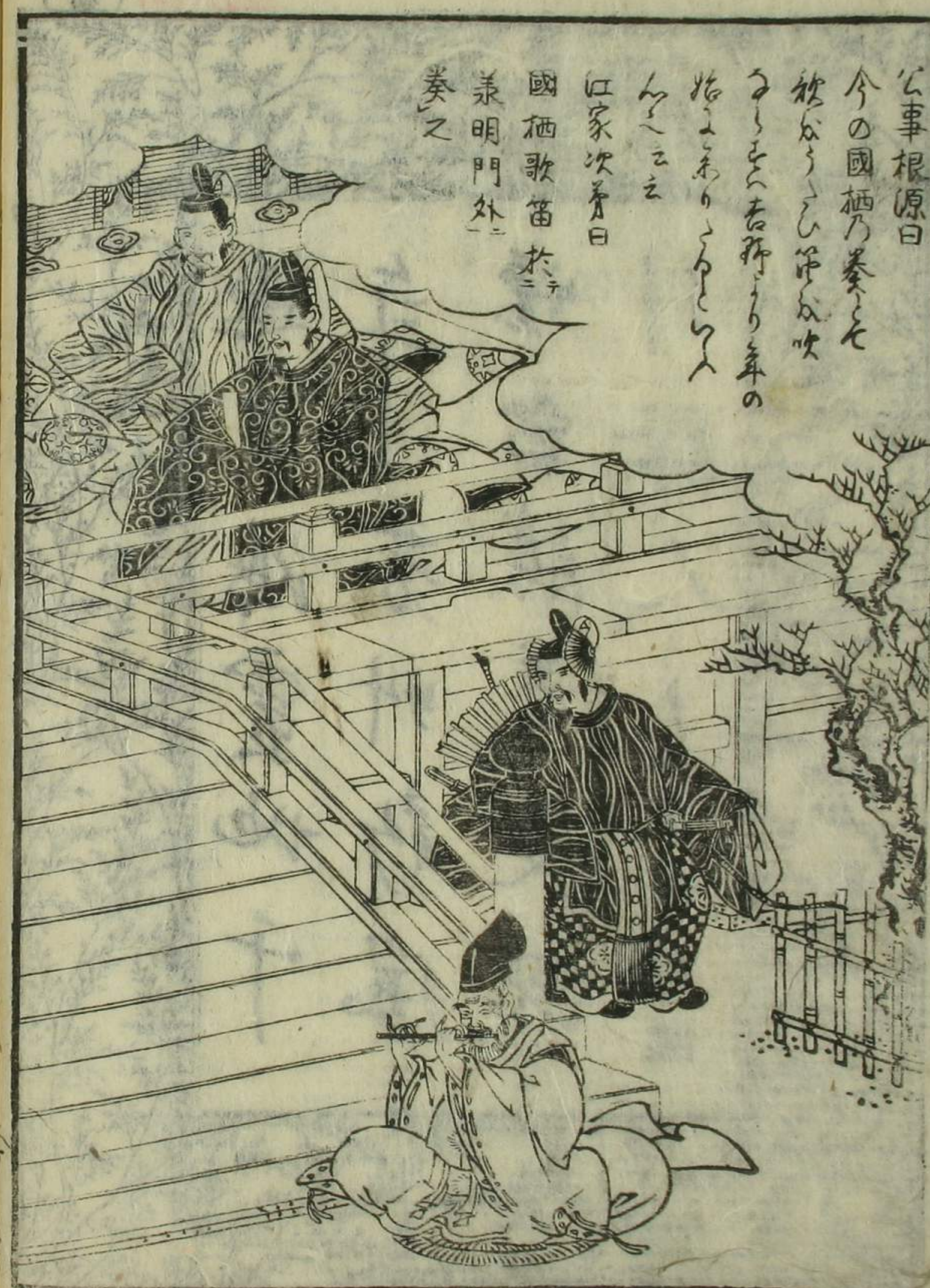
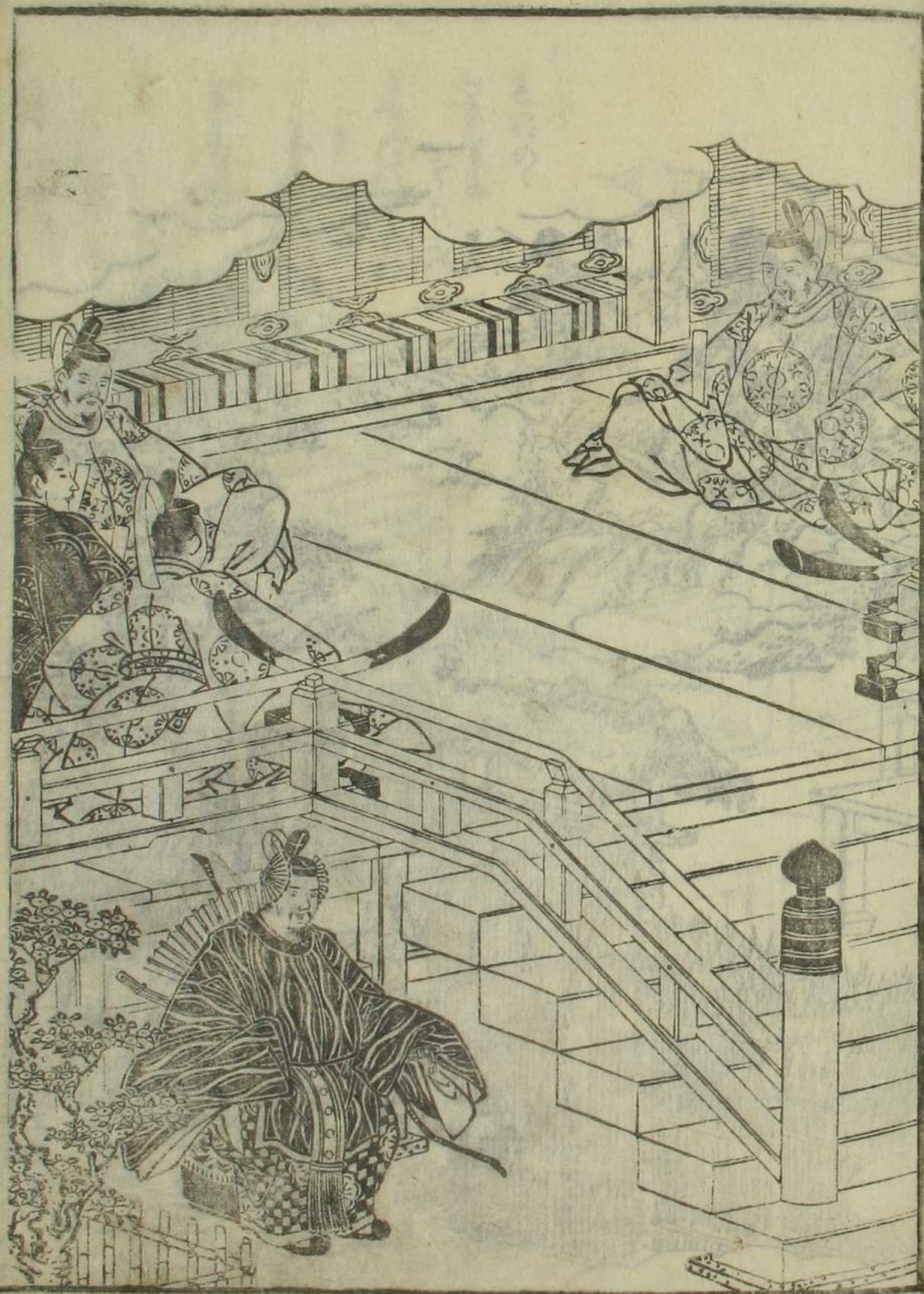
御祭圖
水屋川
二基塔
善趣橋
抜戸祠
地獄谷
白毫寺
鳴雷神
後葉堂

凡例

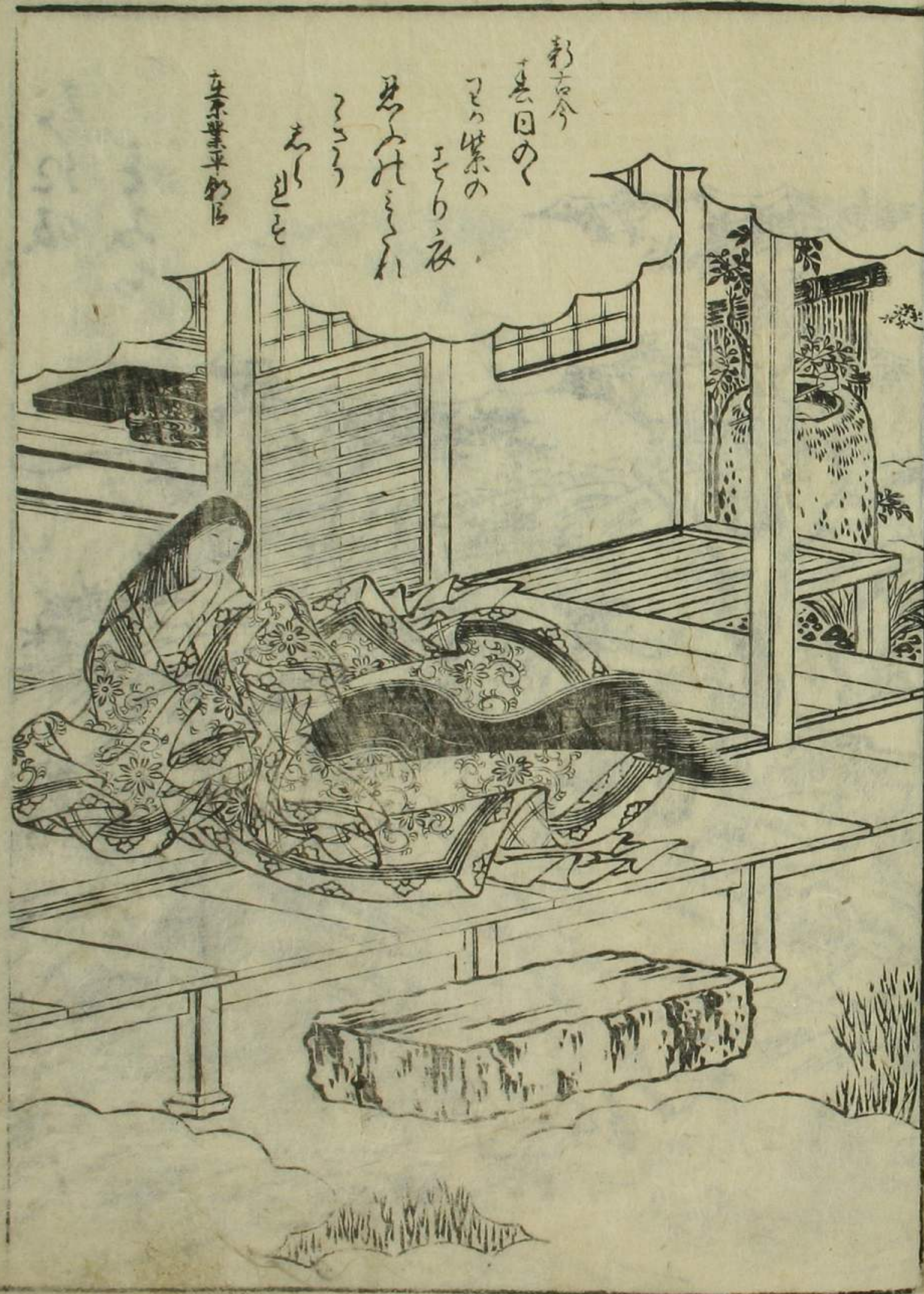
一 域内十五郡小封境小大あり廣大なる一郡二巻小直に狭少なるは
 五郡一卷小縛りあり其郡界の圍卦の上小細書して標水に
 一 圖中小大度の寺院の系創より一子有餘衆と應との多し時世移り
 随ひ國郡騷擾の時或は荒廢し或は回祿乃至その亦多し於是
 圖画の今時の系勝をわたり由縁の舊記をそのし書に所謂
 興福寺藥師寺のおぼやたらあり
 一 圖畫の間く小人物の大繪あり古方のと後と画とを其地の風俗に
 あつらんがらふ又事實の画とを其地乃見安らん便中
 表目此の辨枚とされし
 一 新建の堂舎新建の碑銘の類とを漏し傳ふ者雅風流
 ありとのなるんて載と

邈矣鴻靈地
 千
 年
 芳州新風
 煙留勝景長
 此
 引駱人
 大江資衡





公事根源曰
 今の國栖乃奏とを
 被たうしし笛吹
 りしとて古新より年の
 始よりありしんしり入
 ん云云
 江家次着日
 國栖歌笛於
 兼明門外
 奏之



新古今
 去日の
 この世の
 ことり夜
 君みれ
 ころろ
 あし
 こと
 在東葉平物居



千里楓林烟樹深
無朝無暮有猿吟

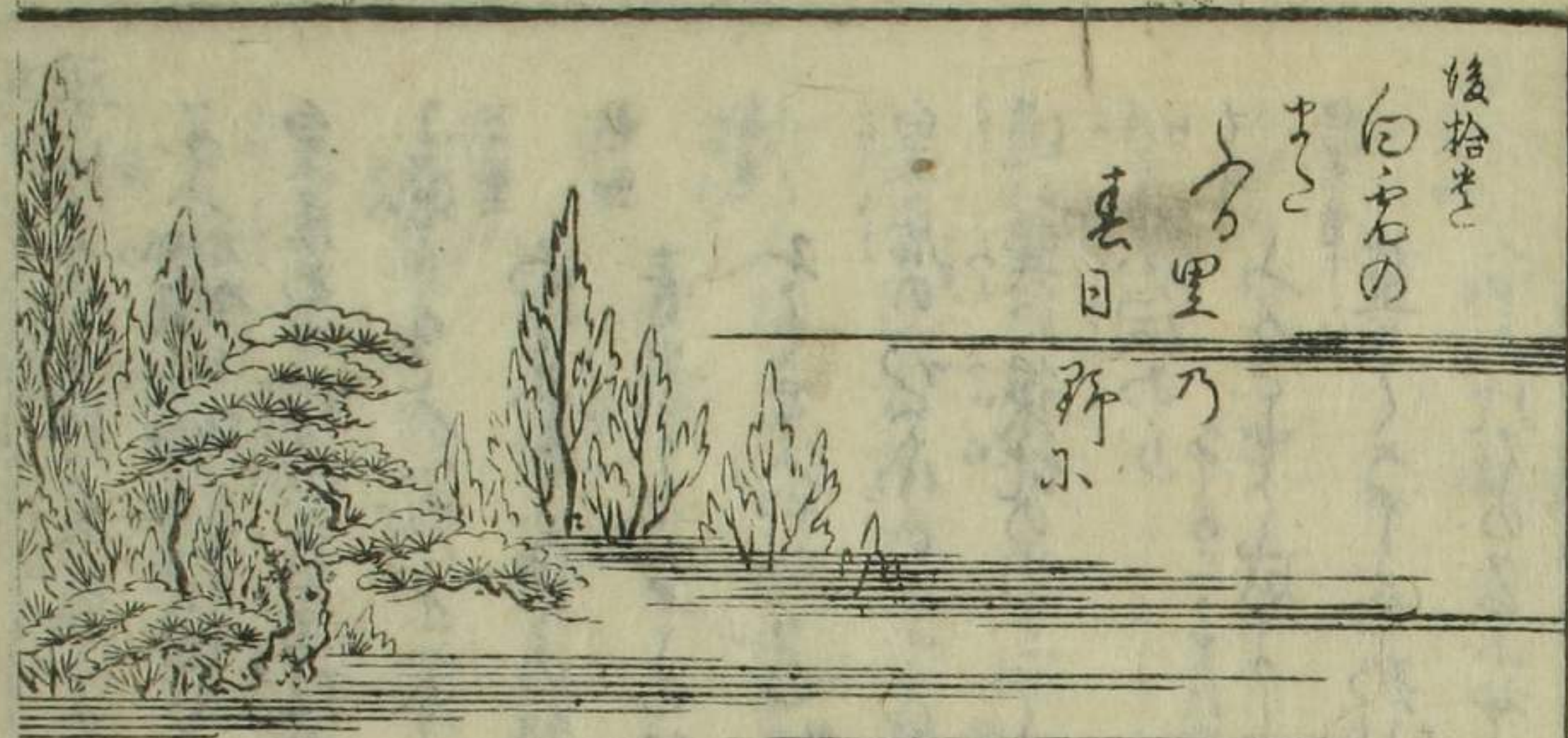


たゞの坂
とみち



大和國と號するの日本書紀神代卷曰大日本豊秋津洲日本書紀云下人皇乃
肇神武天皇天下小王と云ふ建て神代の跡を継日向國宮崎郡と云ふ
世時天下草昧にして封域いまだ定らば帝東征ゆして後初く都を
大和國橿原宮小定するを國造小珍彦と居り居り故小大和國と
日本の物號ありて皇居を宮治入國とせし通稱して一國の名とせり
續日本紀曰聖武帝天平九年大倭國を改て大養徳國とて同十九年又
改て舊小倭と大倭國とと云ふ拾芥抄曰天平勝寶年中延喜用題記曰大
倭國草昧のころ居舎いまだ有らば人民唯と云據て富と定ふるの
と戸とを釋日本紀曰開闢の地土地濕く乾かばと云と登宗人の跡あり
つてふるの跡といふ善隣國寶記曰後漢書倭王居耶摩堆蓋此國
人到彼土稱大倭故如此書乎云日本世記曰釋道東朝あり大倭乃二字
連綿するの或は本朝と云書して異朝といふ従ひ或は異域と云唱て我
朝後小和といふ日本釋名曰貝不神武帝日向より東征し居りたるの

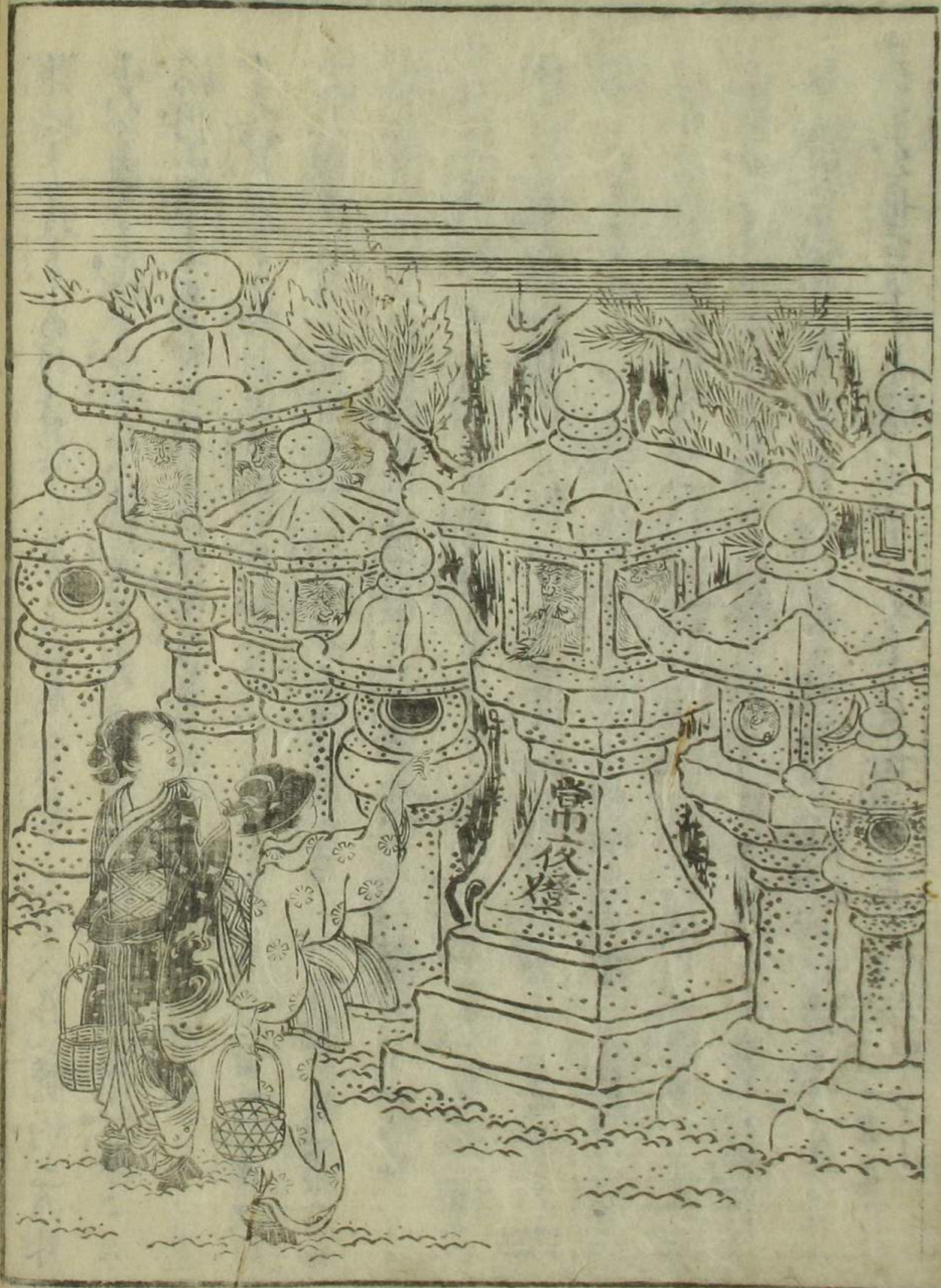
難波より牧方小のりきたる其より伊駒と云然て大和入る膽駒との外
小の國と云故小と外といふ淀川の内小の國といふ内と云つて外と云
内小對しての名なり又伊駒との背に在る北の國と云背國といふ也
一之背北より續日本後紀曰兼和三年十月己未兼前之例畿内國次以
大和國處之第一勅宜新式改之以山城國處之第一云日本正統圖曰大和
國大管十五郡山繞而種生千倍出國之差圖名所舊跡繁大上上國也
系良の海上郡あり日本紀曰崇神天皇十年武埴安彦と妻の吾田媛と
國家の願を以て持國と云探り各ある官軍那羅と云屯聚して草を以て隔
阻しつるそのと云號す那羅といふ又輪韓の故に挑み殺し
時の人そのゆから挑むといふ和名といふ泉の海に東大寺南敵の軍敗とて武埴
安彦夫婦が官軍とて討取らば小忌免と云つて和珥の武録坂の
上鎮坐す忌免青次と云神中次免の酒器あり詞林採けい小青次と云
あるも母を以て青幣と云と云素の枕詞小あり程板説あり古道



後拾遺
白岩の
まご
乃
春日
新小



乃か
摘ん
能直
い
い



常
依
燈

平城の皇城（文武帝の母后元明天皇和銅二年）ついで那羅の都（建）

皇居（乃樂平橋）同二年小遷都あり七代の御門（元明元正）靈徳（光仁）崇良（）

小遷りあり（た系）今の南都（右系）あるなり

あまふりし（中）の都（暖）ありなり（）

青丹（）ありし（の都）なり（）なり（）

そしと（）ありし（の都）なり（）なり（）

皇居（の）今の系（）なり（）なり（）

道の巽（）に築城（）の内（）あり（）なり（）

小祠（）あり（）

古（）今（）

保（）安（）首（）道（）

葺（）く（）なり（）なり（）

さ（）れ（）なり（）なり（）

ま（）日（）神（）

代（）の（）む（）く（）

なり（）なり（）なり（）なり（）

又（）興（）登（）産（）靈（）命（）の（）

の（）下（）は（）岩（）根（）に（）宮（）なり（）

ま（）日（）の（）ち（）ち（）なり（）なり（）

ま（）日（）の（）ち（）ち（）なり（）なり（）

ま（）日（）の（）ち（）ち（）なり（）なり（）

ま（）日（）の（）ち（）ち（）なり（）なり（）

ま（）日（）の（）ち（）ち（）なり（）なり（）

ま（）日（）の（）ち（）ち（）なり（）なり（）

ま（）日（）の（）ち（）ち（）なり（）なり（）

ま（）日（）の（）ち（）ち（）なり（）なり（）

ま（）日（）の（）ち（）ち（）なり（）なり（）

ま（）日（）の（）ち（）ち（）なり（）なり（）

ま（）日（）の（）ち（）ち（）なり（）なり（）

ま（）日（）の（）ち（）ち（）なり（）なり（）

ま（）日（）の（）ち（）ち（）なり（）なり（）

ま（）日（）の（）ち（）ち（）なり（）なり（）

ま（）日（）の（）ち（）ち（）なり（）なり（）

ま（）日（）の（）ち（）ち（）なり（）なり（）

ま（）日（）の（）ち（）ち（）なり（）なり（）

ま（）日（）の（）ち（）ち（）なり（）なり（）

ま（）日（）の（）ち（）ち（）なり（）なり（）

ま（）日（）の（）ち（）ち（）なり（）なり（）

ま（）日（）の（）ち（）ち（）なり（）なり（）

ま（）日（）の（）ち（）ち（）なり（）なり（）

ま（）日（）の（）ち（）ち（）なり（）なり（）

ま（）日（）の（）ち（）ち（）なり（）なり（）

ま（）日（）の（）ち（）ち（）なり（）なり（）

ま（）日（）の（）ち（）ち（）なり（）なり（）

ま（）日（）の（）ち（）ち（）なり（）なり（）

ま（）日（）の（）ち（）ち（）なり（）なり（）

ま（）日（）の（）ち（）ち（）なり（）なり（）

ま（）日（）の（）ち（）ち（）なり（）なり（）

ま（）日（）の（）ち（）ち（）なり（）なり（）

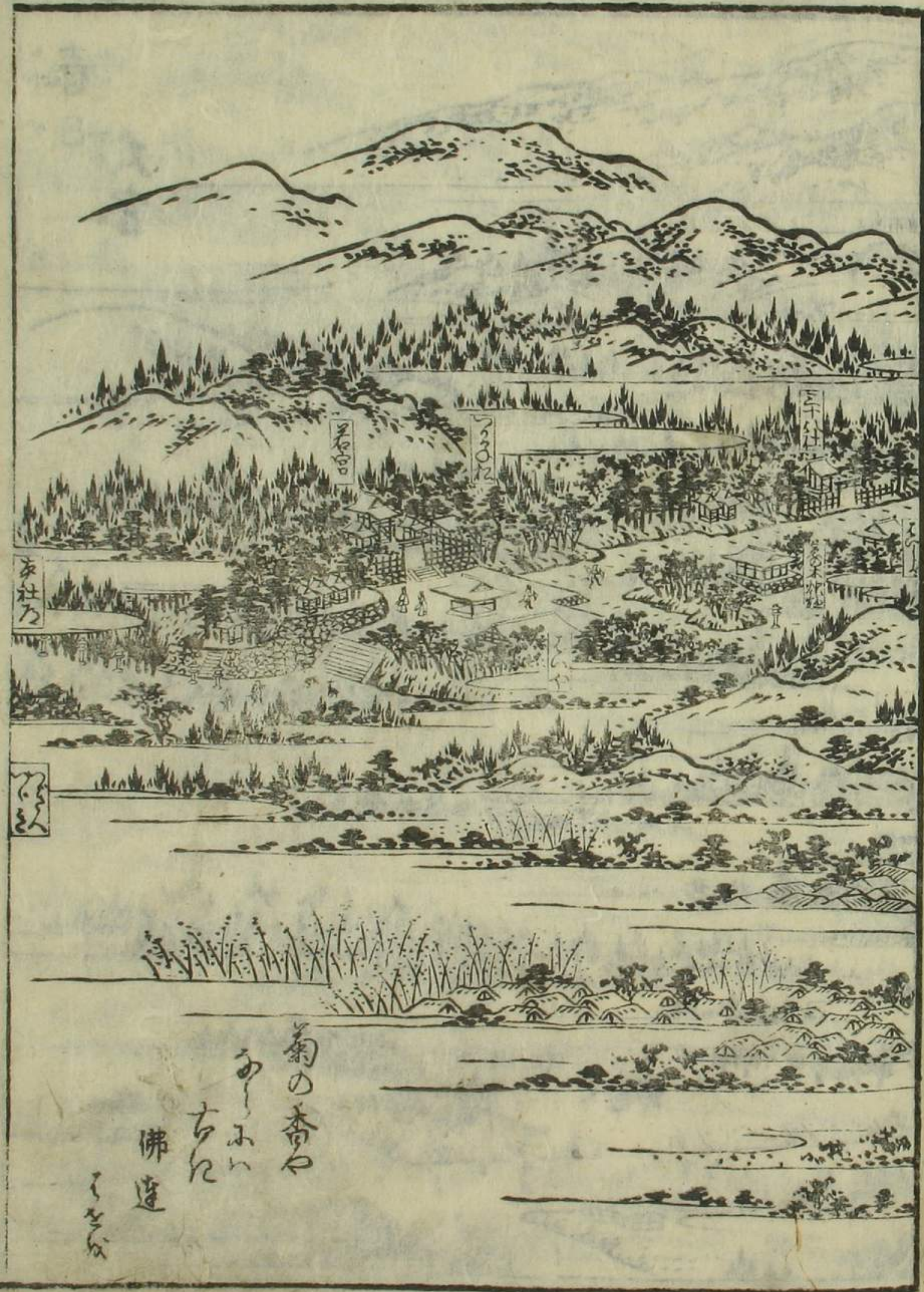
ま（）日（）の（）ち（）ち（）なり（）なり（）

ま（）日（）の（）ち（）ち（）なり（）なり（）

ま（）日（）の（）ち（）ち（）なり（）なり（）

ま（）日（）の（）ち（）ち（）なり（）なり（）

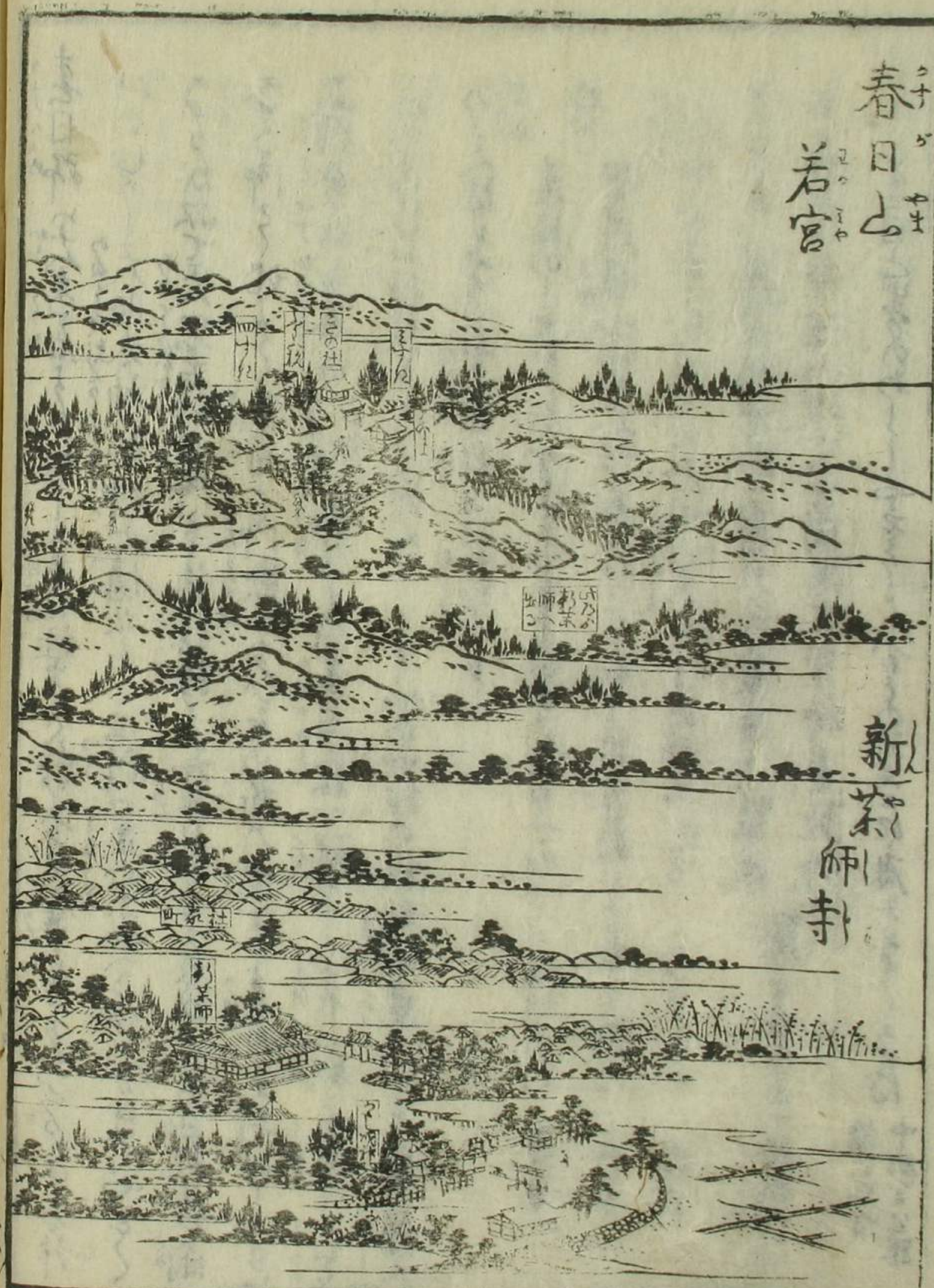
ま（）日（）の（）ち（）ち（）なり（）なり（）



灰社乃

石

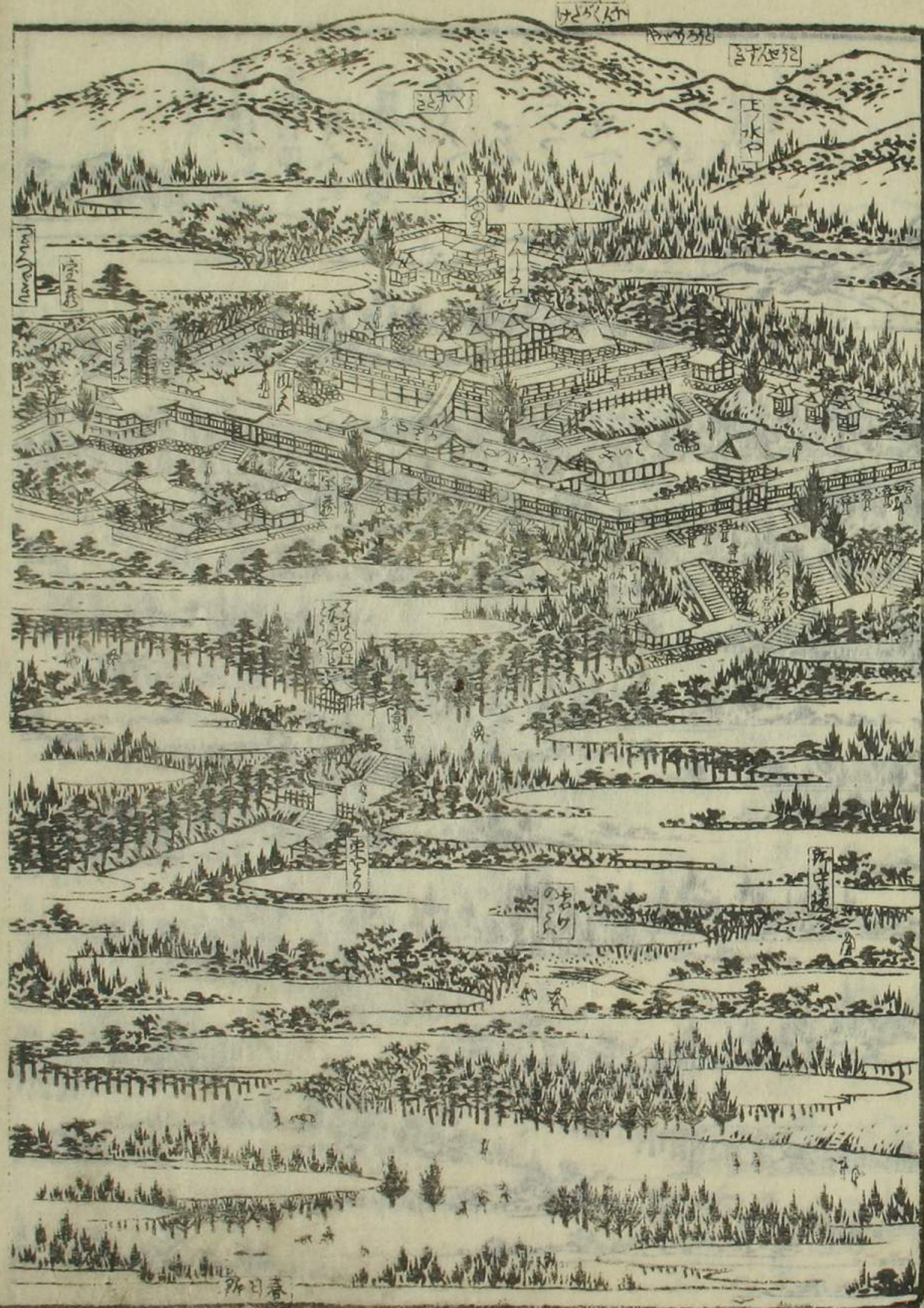
菊の香
あふい
古尼
佛達
くま



春日山
若宮

出師

新
茶
師
村



春日
大宮

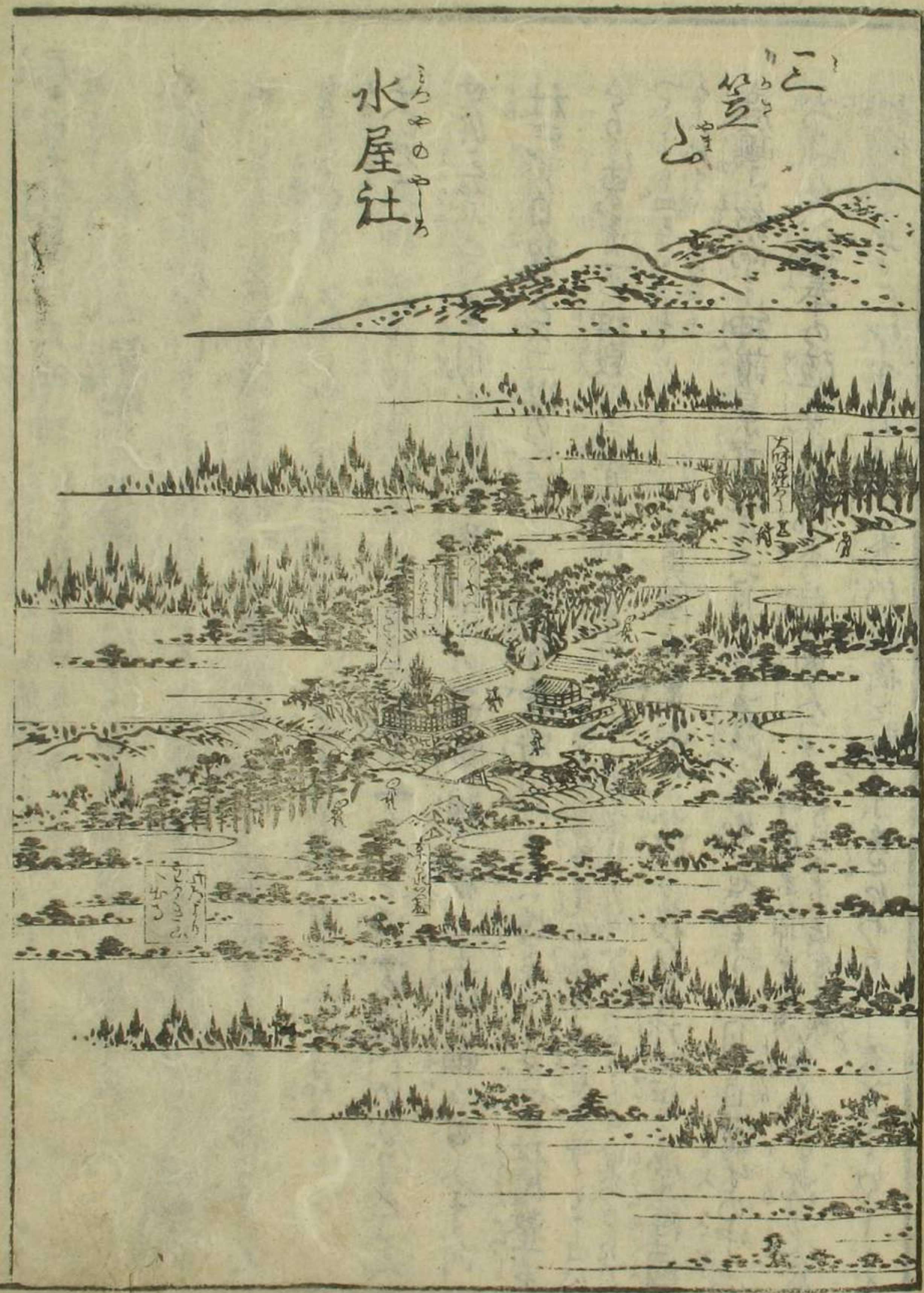
山
池

山

池

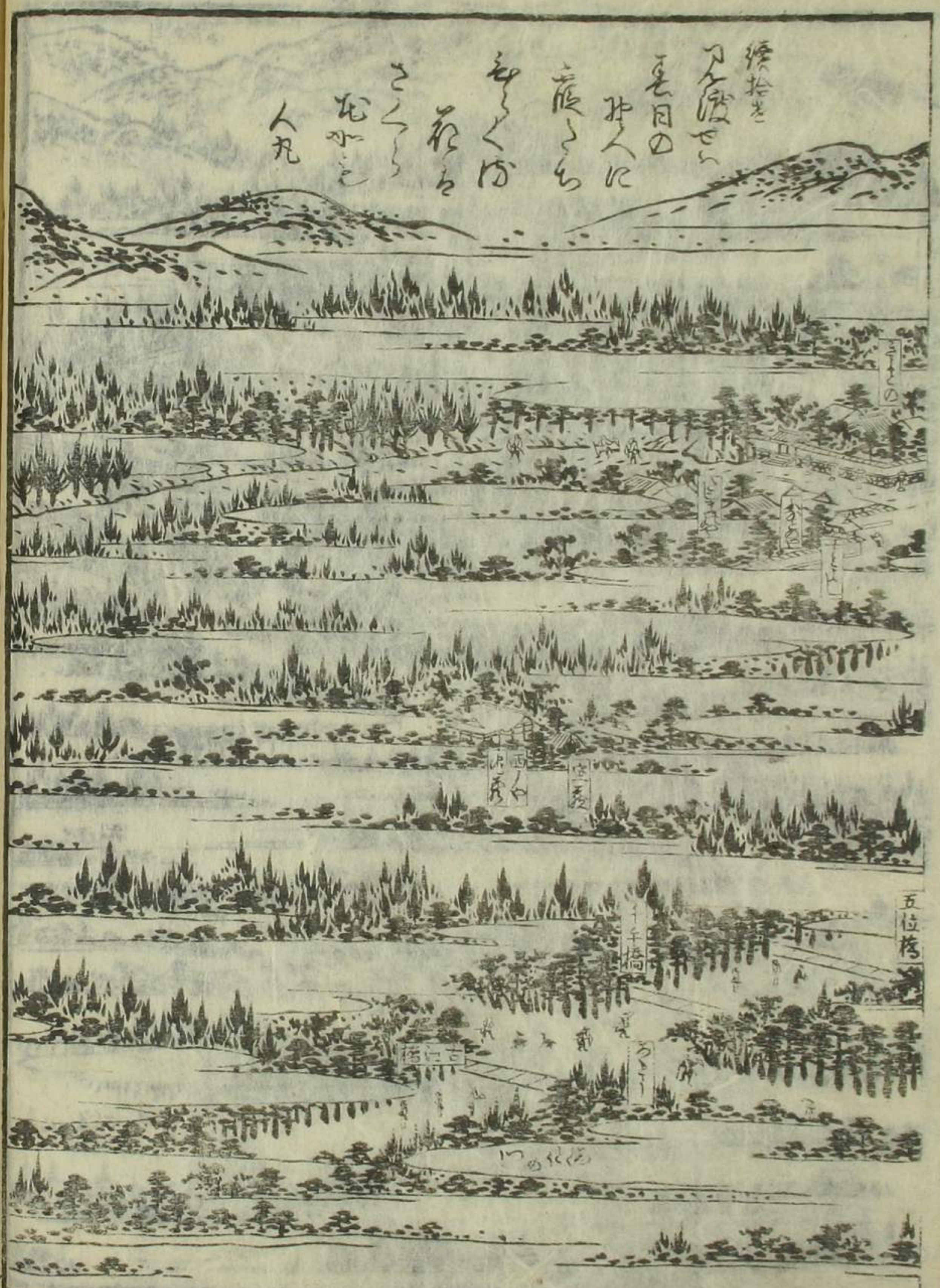
山

水屋社



山

橋
石
目
井
辰
心
花
さ
龍
人



五位橋

女之故に平國明神の相殿に備へし其の續日本紀曰嘉祥二年九月參議藤原明光遣
して勅命あり建御賀豆智命伊波比主の二柱の大神より正一位大屋根命
御書女の説し可なり神より正四位上から崇まりて入位階なり

中院小社三座 瑞籬の外 岩本祠 本社の坤にあり 神護寺 東の方 青神祠

神護寺の南 辛神祠 青神の南にあり 穴栗祠 辛神の南にあり 井栗祠 穴栗の南にあり

内院小社二座 瑞籬の裏 千力雄神 南の一座 飛来天神 北の一座 大御中主尊

直會殿の勅使上卿の事より所へ講屋と號と法義八講の修

せられしうりの名 後徳のより村社 天曆元年より二年に於て
日しつるも幣殿 勅使幣を指す所 舞殿 直會殿のつれにあり貞觀

鹿走 廣文記曰圓廊の向にあり毎年二月八日の夜金剛生座の二座より年極

林橋庭 幣殿のふみあり其日祭の日 御洗所 圓廊の向にあり其日祭の日

一位橋 橋の奥にあり 二位橋 橋の奥にあり

一鳥居 宝永記曰は内門の鳥居なり 聖の床 圓廊の内に入り寛文記曰は神座なり

遷殿 八幡宮の北にあり寛文記曰 南門 橋門より寛文記曰は寶龜二年夏雷火に其後二階の橋

酒殿 圓廊の奥にあり酒を造る所 御供所 内内門の下あり其方にあり

俊喜櫻 天下無雙のクヤ本といふ 布生橋 又御前橋

春日若宮 大田屋根の兒天神を奉りて其法要集に之より

則に内國平國明神の 或記曰吉田家の記録より瓊々杵尊より入位階なり

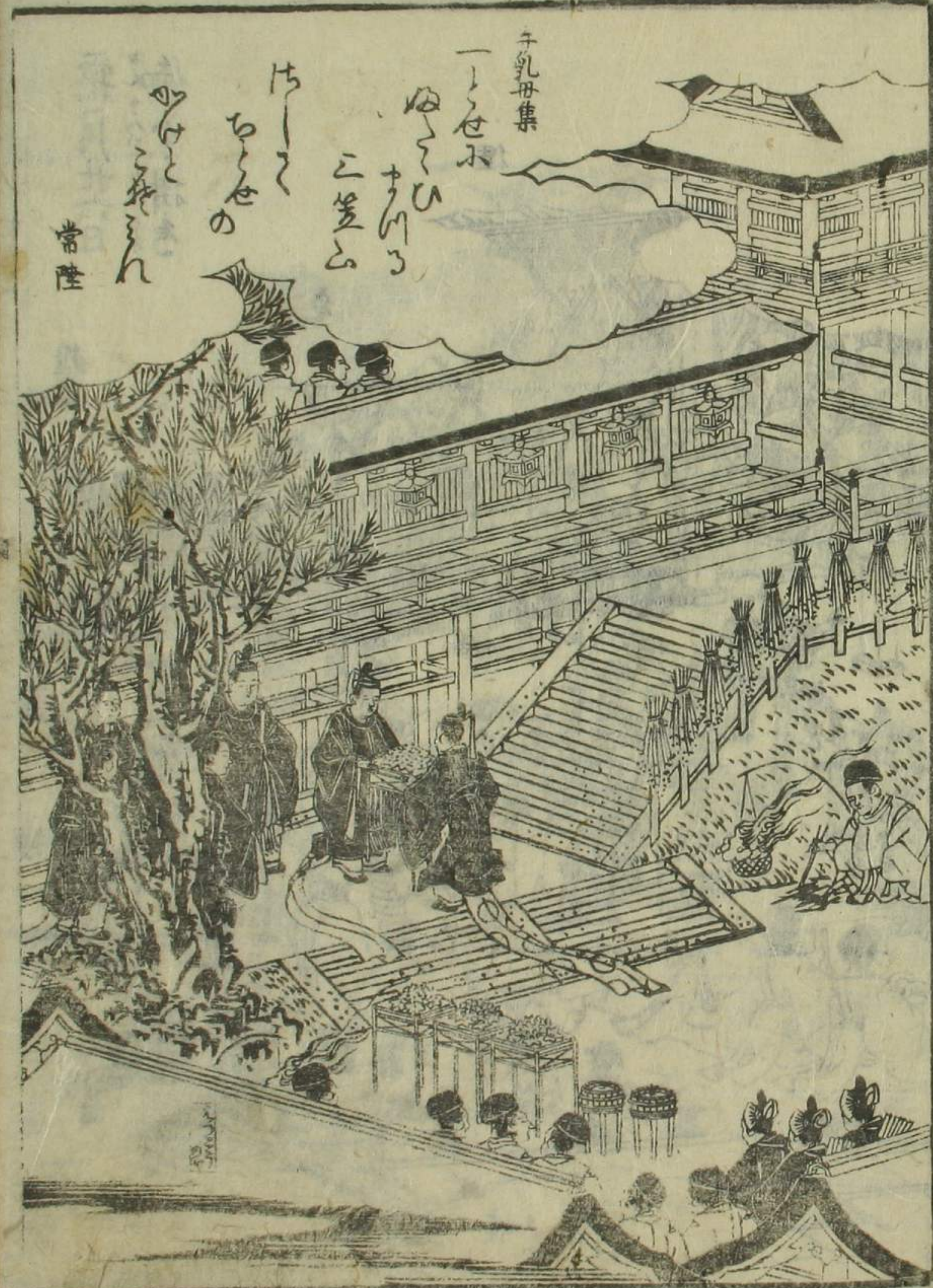
若宮神主唯一家の秘説より他に知るべし 社記 夫若宮の所鎮座

長保五年二月二日の御殿の向小祠とありし一は時風五代乃孫

中臣連足忠の御殿小後一祝なむ其後百二十年を越し長保

四年四月廿七日時風八世の孫祐房別神殿を造營して御鎮座

なり今の若宮大明神是なり



千乳母集
 一しせ不
 ぬくひ
 ちの
 ちの
 常陸



壬日余大宮四所の内林事
 一年小西なりて二月申日
 十一月申日小西のけり
 仁明帝嘉祥二年九月
 中臣秀基
 終く其後清和帝貞觀
 十一年十月九日
 庚申の夜より
 うりてゆき
 うりてゆき

九
 八
 七



内院小社 二座あり
手力雄神 神領あり
通合神 中臣村居野の靈に

て後仁平二年十月廿四日 ね七年分付く 治承二年神代に 通合神の靈に
ついでに社小春日曼陀羅にあり 永平年中 普賢寺殿基通の所 曼陀羅の圖あり
外院小社 外院にあり
廣瀬祠 俗に愚子丹津
縣橋祠 昔城
廿八祈祠 神日本武尊

伊弉諾尊 **佐良氣祠** 神 蛭見 **紀伊祠** 外院の末にあり 宗神四座日前神
伊弉尊 **佐良氣祠** 神 五十猛神 大屋姫命 狹津姫命 各財天社
王水記曰く 弘法大師天降し 氣集あり 居る 廿八祈の末にあり 解脱上人の
又云 弘法大師の御遺體を 弘法大師の御遺體あり 解脱上人の像に 上人の像に
くもして 解脱上人の安置の所なる神と 解脱上人の像に 童子の像に 上人の像に あり

我の心は 是れは 解脱上人の像に 童子の像に 上人の像に あり
拜殿 寛文元年 弘法大師の御遺體あり 解脱上人の像に 童子の像に 上人の像に あり
長兼元手にて 解脱上人の御遺體あり 解脱上人の像に 童子の像に 上人の像に あり
寛文元年 弘法大師の御遺體あり 解脱上人の像に 童子の像に 上人の像に あり

ついでに 解脱上人の御遺體あり 解脱上人の像に 童子の像に 上人の像に あり
寛文元年 弘法大師の御遺體あり 解脱上人の像に 童子の像に 上人の像に あり

おのの奇に 弘法大師の御遺體あり 解脱上人の像に 童子の像に 上人の像に あり
大宮殿の敷石のうへに 解脱上人の御遺體あり 解脱上人の像に 童子の像に 上人の像に あり
より 四祈願神(菩提)と 解脱上人の御遺體あり 解脱上人の像に 童子の像に 上人の像に あり
納む 屋敷の六橋(御遺體)あり 解脱上人の御遺體あり 解脱上人の像に 童子の像に 上人の像に あり
と納む 両部の神道とあり 解脱上人の御遺體あり 解脱上人の像に 童子の像に 上人の像に あり
おのの奇に 弘法大師の御遺體あり 解脱上人の像に 童子の像に 上人の像に あり

二年遊歴は 弘法大師の御遺體あり 解脱上人の像に 童子の像に 上人の像に あり
あり 弘法大師の御遺體あり 解脱上人の像に 童子の像に 上人の像に あり

は例が
五箇屋 新造を 凡の屋上の屋西の屋本後天の屋上
是は 弘法大師の御遺體あり 解脱上人の像に 童子の像に 上人の像に あり

世小寺自神無明の屋上 弘法大師の御遺體あり 解脱上人の像に 童子の像に 上人の像に あり
安座の他 弘法大師の御遺體あり 解脱上人の像に 童子の像に 上人の像に あり

瓦之屋 寛文元年 弘法大師の御遺體あり 解脱上人の像に 童子の像に 上人の像に あり
佛と安座あり

本談義屋 寛文元年 弘法大師の御遺體あり 解脱上人の像に 童子の像に 上人の像に あり
佛と安座あり

三年 清涼殿 弘法大師の御遺體あり 解脱上人の像に 童子の像に 上人の像に あり
は 弘法大師の御遺體あり 解脱上人の像に 童子の像に 上人の像に あり

て 弘法大師の御遺體あり 解脱上人の像に 童子の像に 上人の像に あり
は 弘法大師の御遺體あり 解脱上人の像に 童子の像に 上人の像に あり

柩之屋 御方家の御遺體あり 解脱上人の像に 童子の像に 上人の像に あり
は 弘法大師の御遺體あり 解脱上人の像に 童子の像に 上人の像に あり

心月 初と 建つ 舟戸祠あり 杉之屋 舟戸屋 棟之屋 大宮社屋
海上 なつちりあり

海上 なつちりあり
海上 なつちりあり

この宮神の 波之屋 社家の 竹之屋 菊之屋 林真の屋 般若屋 ひりく大般若任

内侍房 化御前之永祿元年二月一條院の村典侍成竹の

安居屋 本朝書史曰まじ 經藏 白のは皇宮の御紙金泥の一切

水屋社 宮の北二百歩計あり 御神 一妻赤島尊神

稻田形 乃之南海神 女之每 癸卯五月日 結あり 乃之屋 能といひ 井乃

藍鯨 伏見院 御宇 上 疫疾 小惱 うれゆる 社に こと け 社に ちと 先

神樂 奏 一 舞曲 なる 一 霊驗 忽に あり 一 一

恒例 一 一 牛石 節分 金の鏡 社に 牛に 一 形 あり 一

石燈 壺 寛文紀曰あ谷社より大宮へゆく道にあり

お屋 川より北に

まじ 水末 水末 せし 神に けく 乃 頼 び け 衣 笠 大 呂

お屋 川と せし 乃 神 田 け せし 乃 頼 び け

長尾洞 寛文紀曰板戸洞より神の道端にあり 板戸洞 あり 日月磐氷室舊地

平城跡 跡考曰あ谷川上六町余 氷室向にあり 日月盤 城上春日日本宮の北

御 河門の 十町計にあり 盤 面に 日月 甲の 之 光 乃 形 影 影 俗に せし 地

お屋 一ノ葉

お屋 拾巻

お屋 拾巻

お屋 拾巻

お屋 拾巻

お屋 拾巻

お屋 拾巻

お屋 拾巻

お屋 拾巻

お屋 拾巻

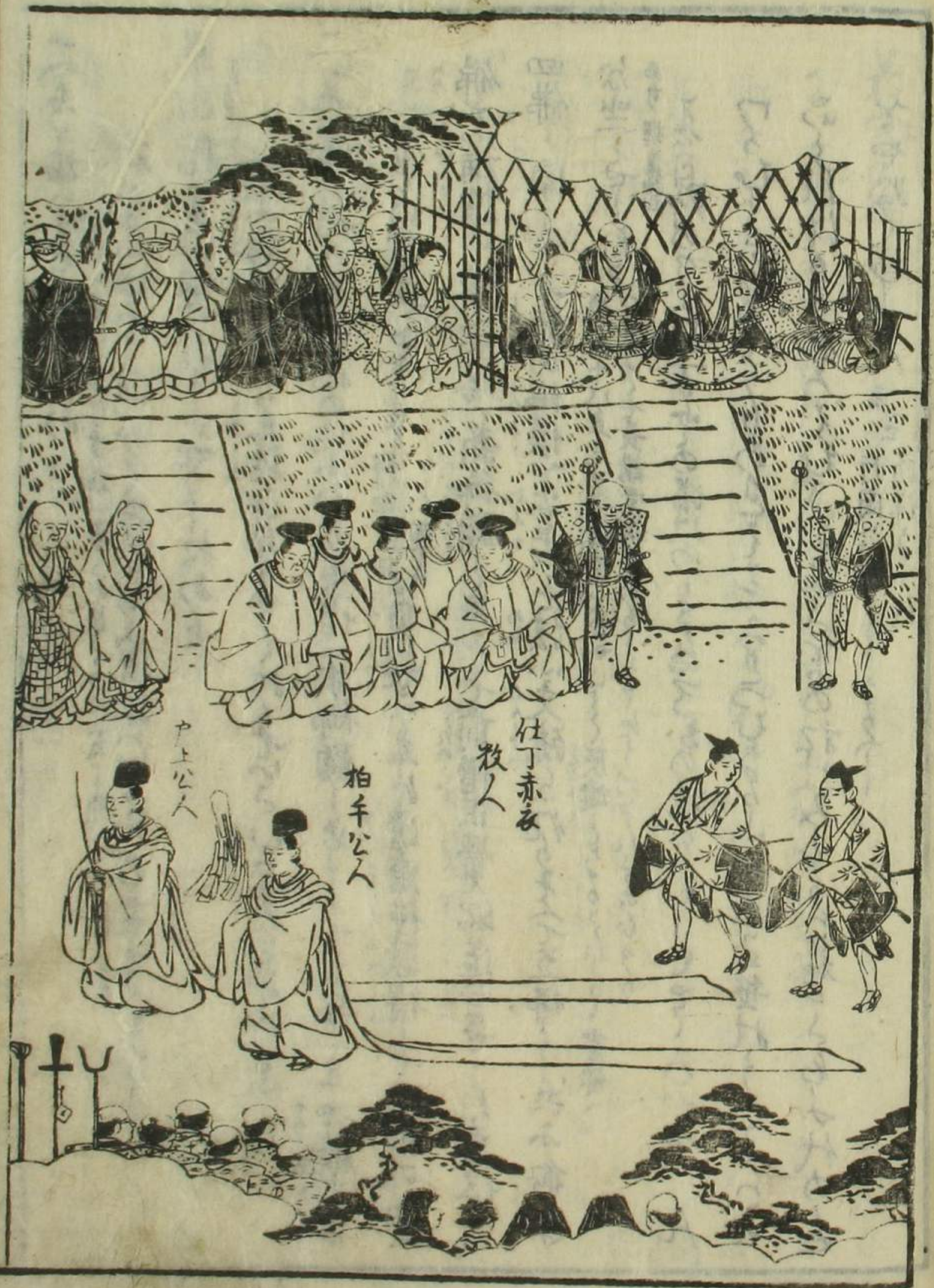
お屋 拾巻

お屋 拾巻

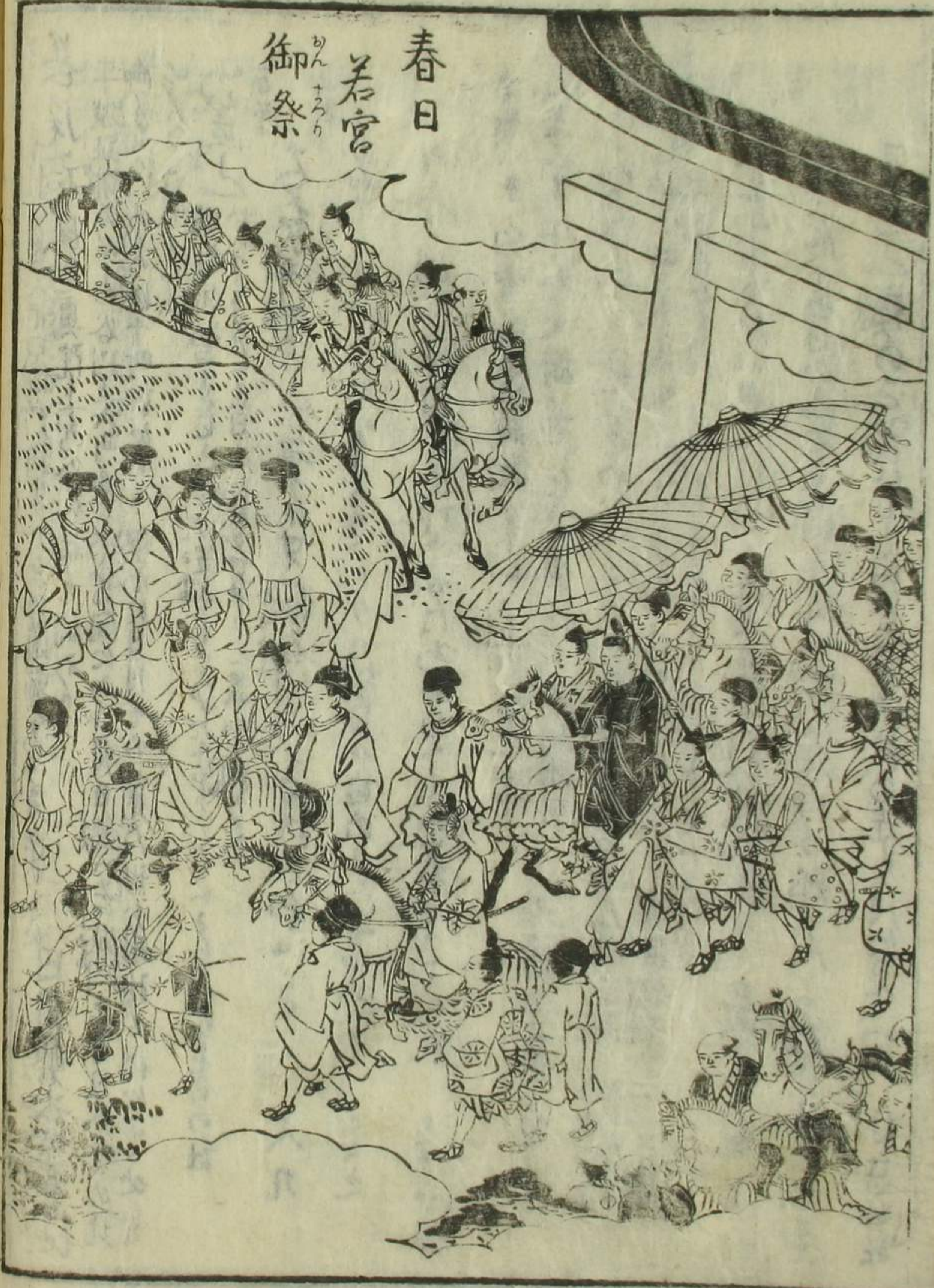
お屋 拾巻

お屋 拾巻

お屋 拾巻



春日
 若宮
 御祭



大なる石の御目井小あり

皇百廿二年 神のち指れ二柱に青柳一本を挿しつゝかたよらぬ
林をふいにやてついでおとらへ身ふいひつゝこのまき方も一

馬出橋の石の御目井小あり

皇百廿二年 御目井記に云く
ふいぢ甲斐の足跡ひらききりていこじつを皇目井の原

二基塔の御目井馬出橋の北小あり東塔本御願と号して天安二年深殿大良

良房公の建立之本尊 釋迦某師 貞觀二年に遣唐使感得て来朝の靈

佛在梅檀の像西塔新御願と号して前僧正覺昭造宮せし東塔乃

四佛 同一て銀の佛像と安んじと後小文殊公化りて五佛と共小獅子

が坐せしれ 應永十八年二基の塔雷火にややく灰燼とらるるに靈佛あり撰集抄目

皇目井のくわに二の塔の塔のあつたはるかの橋のあつてもとるふとらん

つらむいなるのゆるりあつてとてつむいなる小笠原公毎れうへつと玉

あつればりのちるもむいしつととのたれみどりのちるもむいしつととの

とやゆむいしつととのたれみどりのちるもむいしつととのたれみどりの

若宮の御旅所大なる石の御目井小あり

うく芝生の森のふじむい尾花おのしとく木の系路分道とが一お月の

御をふいしつととのたれみどりのちるもむいしつととのたれみどりの

若宮の御旅所大なる石の御目井小あり

毎集八月十日といはれり殿の用本和國中より新が例

武蔵よりくまの伐出は皇日の修理因代運送九月朔日

十六日若石御十六町より出る御尊二十六枚は御谷村より年かつりに指す西

馬帽ふし御尊と看して

これに修造は

若宮の御旅所の地はいづれより南へ入細道あり

皇目井のちののほに神くれし若宮をわたり小井と我はし 仲定

皇目井の東あり細なふれといへ諸人のほな踏川にひく御旅あり

折々くく鹿道といふの皇目井神麻に於てうつりたる入道あり

といふ西は法師の撰集抄に云く六道といはれり

若宮橋 車屋殿 五位橋 二を石かとり末にあり

春日古記

名所たる内た右も左向の系ふとやあつたり給へば方の林く

板戸神祠のあふ所瀬織津比咩あり 宝永記無形権現

板戸神前の石燈壇

世に名高し

燈籠六角

物高六尺一寸五分

神垣裏神垣と板戸の北あり

風雅

神垣の裏に系ふらりまねく尾をそけりま日井の系 院兵衛督

王吟

子孫振神垣とてそん日井の系とてそん日井の系 家隆

看到殿へ神垣裏より右の方あり延喜十六年の造立

神原に詣りて地獄谷にありあり入寂の處あり女の系に詣りて神垣の北あり

我大明神の神方候よりいふに神垣の北あり入寂の處あり女の系に詣りて神垣の北あり

あり深所の系ありいふに神垣の北あり入寂の處あり女の系に詣りて神垣の北あり

我大明神の神方候よりいふに神垣の北あり入寂の處あり女の系に詣りて神垣の北あり

あり深所の系ありいふに神垣の北あり入寂の處あり女の系に詣りて神垣の北あり

我大明神の神方候よりいふに神垣の北あり入寂の處あり女の系に詣りて神垣の北あり

板戸神祠の北ありいふに神垣の北あり入寂の處あり女の系に詣りて神垣の北あり

春日古記
橋の橋本の景小あり中間道とていひの橋は宮へ詣りて持道と

青龍の橋とてなりし神ありいひの橋は宮へ詣りて持道と

何のもしありいひの橋は宮へ詣りて持道と

鈕先石の神垣裏小ありいひの橋は宮へ詣りて持道と

其の多しを知りていひの橋は宮へ詣りて持道と

元弘三年立石月次の原小ま日系儀式あり

宝永記曰くは名高し

子孫振神の系ありいひの橋は宮へ詣りて持道と

御洗川 社殿裏の系ありいひの橋は宮へ詣りて持道と

慶賀門 田廊の北ありいひの橋は宮へ詣りて持道と

外院の小社八座 外院の外ありいひの橋は宮へ詣りて持道と

忠隆金剛童子祠 伊勢諾尊ありいひの橋は宮へ詣りて持道と

楯本祠 忠隆のひきありいひの橋は宮へ詣りて持道と

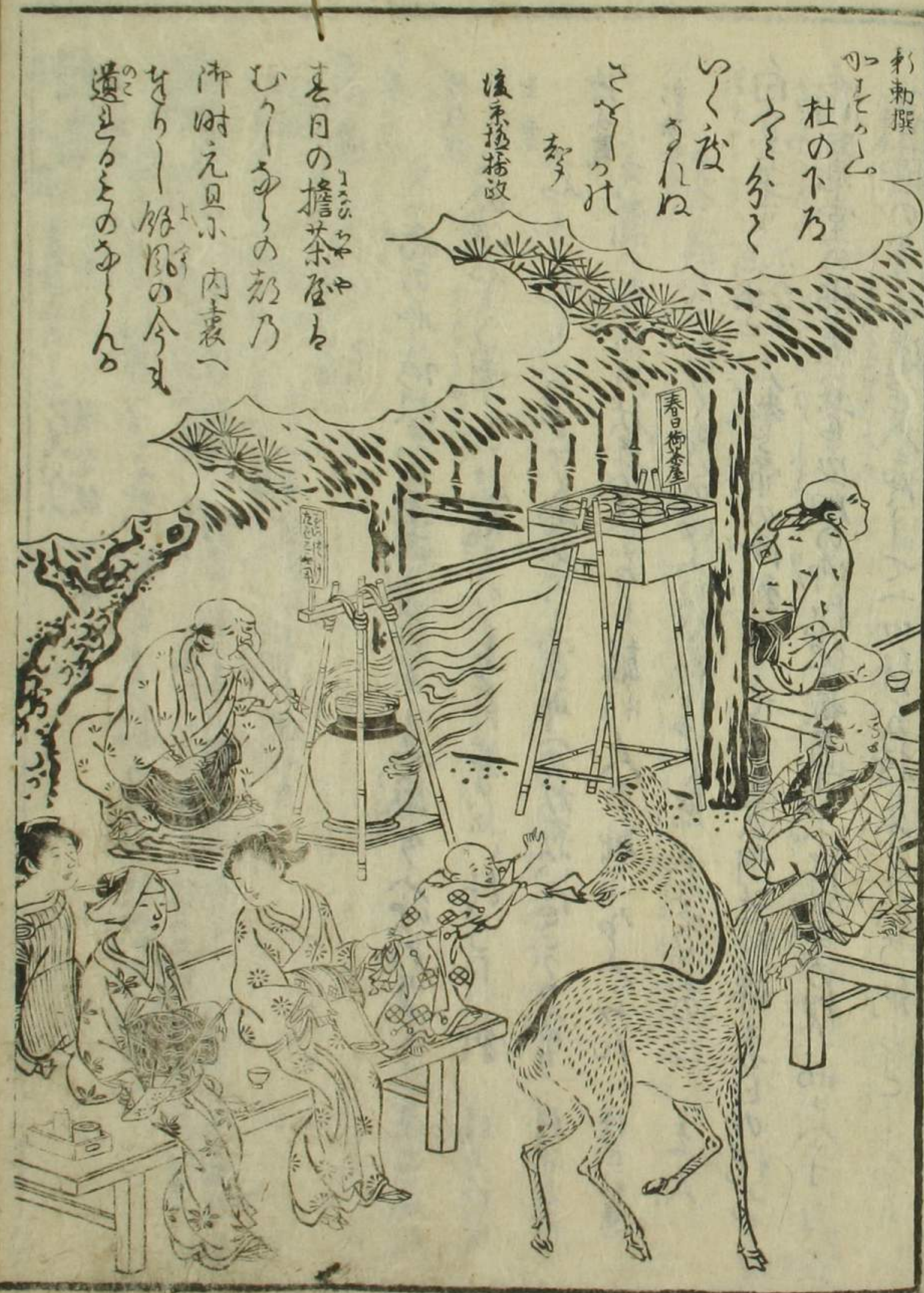
風神祠 楯本の系ありいひの橋は宮へ詣りて持道と

栗本祠 田心系ありいひの橋は宮へ詣りて持道と

雷神祠 海本の系ありいひの橋は宮へ詣りて持道と



新勅撰
 杜の下乃
 夕な
 さやうれ
 後永後後改
 五月の擔茶屋
 ひうあうの初乃
 所時元且小内裏へ
 ちりし給所の今又
 遺るととのあらん



借香かりか 万葉集より備香能と云々

かりかしの尊と云ふ小おとよりかりかしの尊と云ふ人

本宮高ほんみやたか 宿文祀曰長流のつら宮よりおたのり林原にほまを伺いすはま日才一の

高圓たかま 二宮の南小

高圓たかま 二宮の南小

この系の丹波は志の系末とつたそと風を吹ぬるり 辰系基佐

あまのやう園あまのやうの杜風ふくもまた家かいはる月影 後考那院

志くもあまのやうと云ふ系末の丹波の杜萩はほるあり 後考那院

高圓の丹波は杜萩咲ふり旅行人の社ふやらん 傍心の意

志くもあまのやうと云ふ系末の丹波の杜萩はほるあり 後考那院

白毫寺びやくばう 高圓の天智帝の御願りて奉尊阿弥陀佛ま日代あり

間麻鬼堂の佛像は菅原相の御代地藏尊は小孫皇の代西大寺貞正

菩薩の才子道照入唐して一切経を持来しはす納らとあり

宅たく 大和志曰宅郷は小郷一御堂村に故小郷宅郷と曰くはははは

平園ひら 社ま日代社一社は法明房忍賢の遺徳を以て春彦社記曰大明神

尾上宮おのの 尾上宮の代り古市の上尾園にあり尾上離宮と

元平九月辛未日 離宮に入らせしなり

ゆくれの夜も涼し高圓のおのれはるの杜れを月風 鎌倉を言

高圓のおのれはるの杜れを月風 鎌倉を言

香かう 小郷若と説く人々 鳴雷神社 香かう 小郷若と説く人々

高嶽たかたけ 高嶽たかたけ 高嶽たかたけ 高嶽たかたけ

若柳わかしやう 今も若妻やりのるま日新の若妻に若妻そかく 中務親王

若柳わかしやう 今も若妻やりのるま日新の若妻に若妻そかく 中務親王

若柳わかしやう 今も若妻やりのるま日新の若妻に若妻そかく 中務親王

若柳わかしやう 今も若妻やりのるま日新の若妻に若妻そかく 中務親王

若柳わかしやう 今も若妻やりのるま日新の若妻に若妻そかく 中務親王

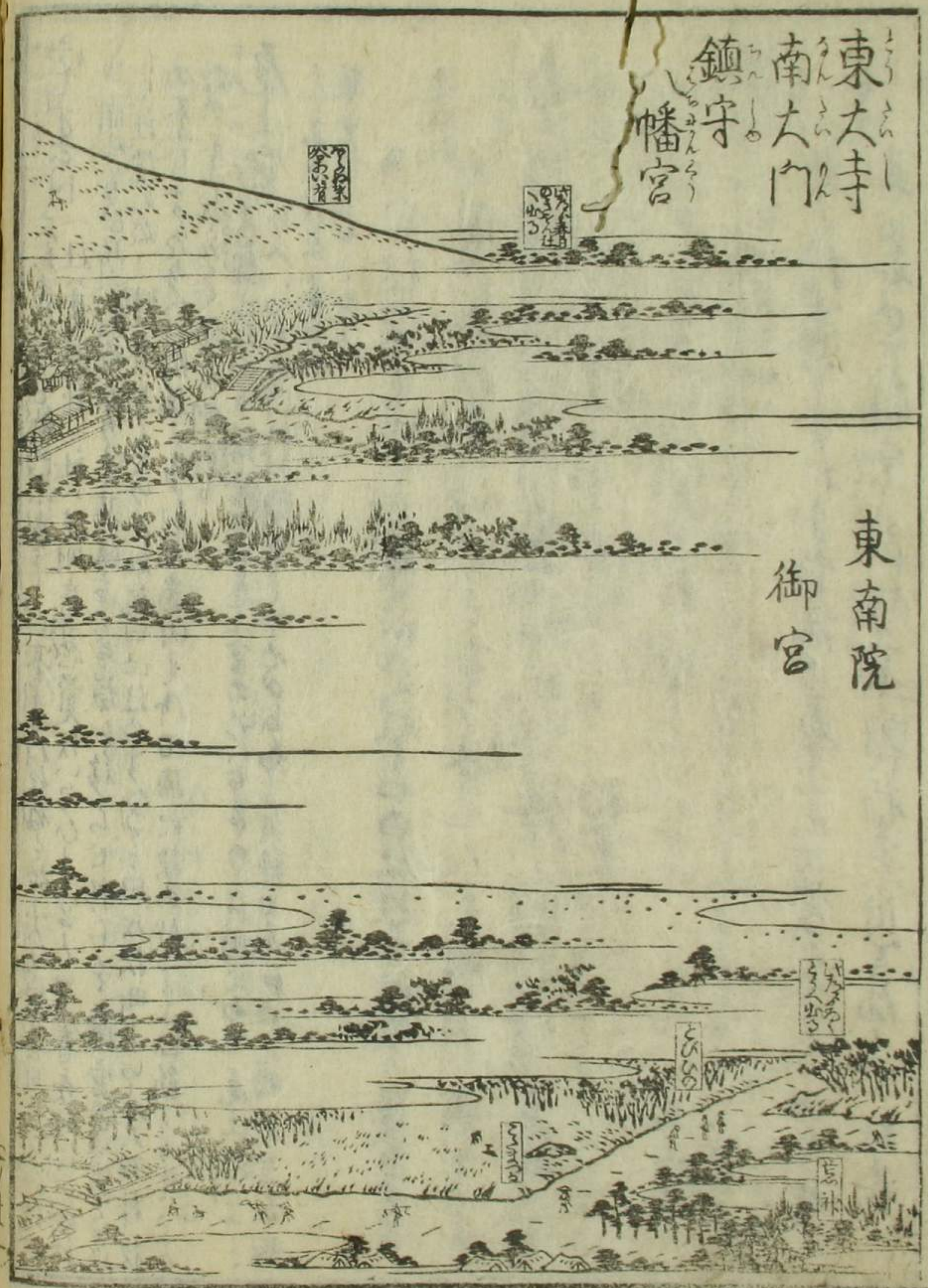
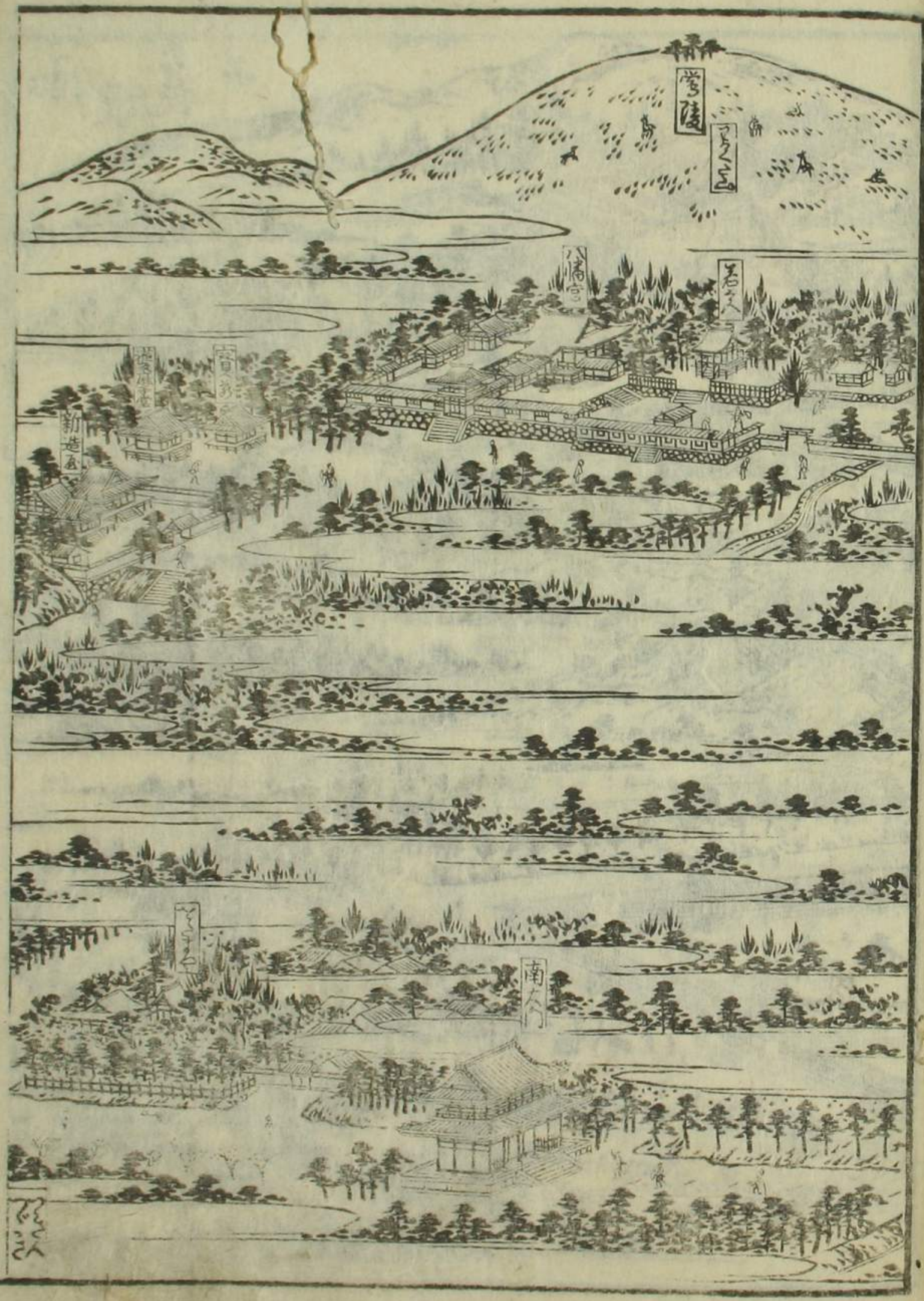
若柳わかしやう 今も若妻やりのるま日新の若妻に若妻そかく 中務親王

若柳わかしやう 今も若妻やりのるま日新の若妻に若妻そかく 中務親王

若柳わかしやう 今も若妻やりのるま日新の若妻に若妻そかく 中務親王

若柳わかしやう 今も若妻やりのるま日新の若妻に若妻そかく 中務親王

若柳わかしやう 今も若妻やりのるま日新の若妻に若妻そかく 中務親王



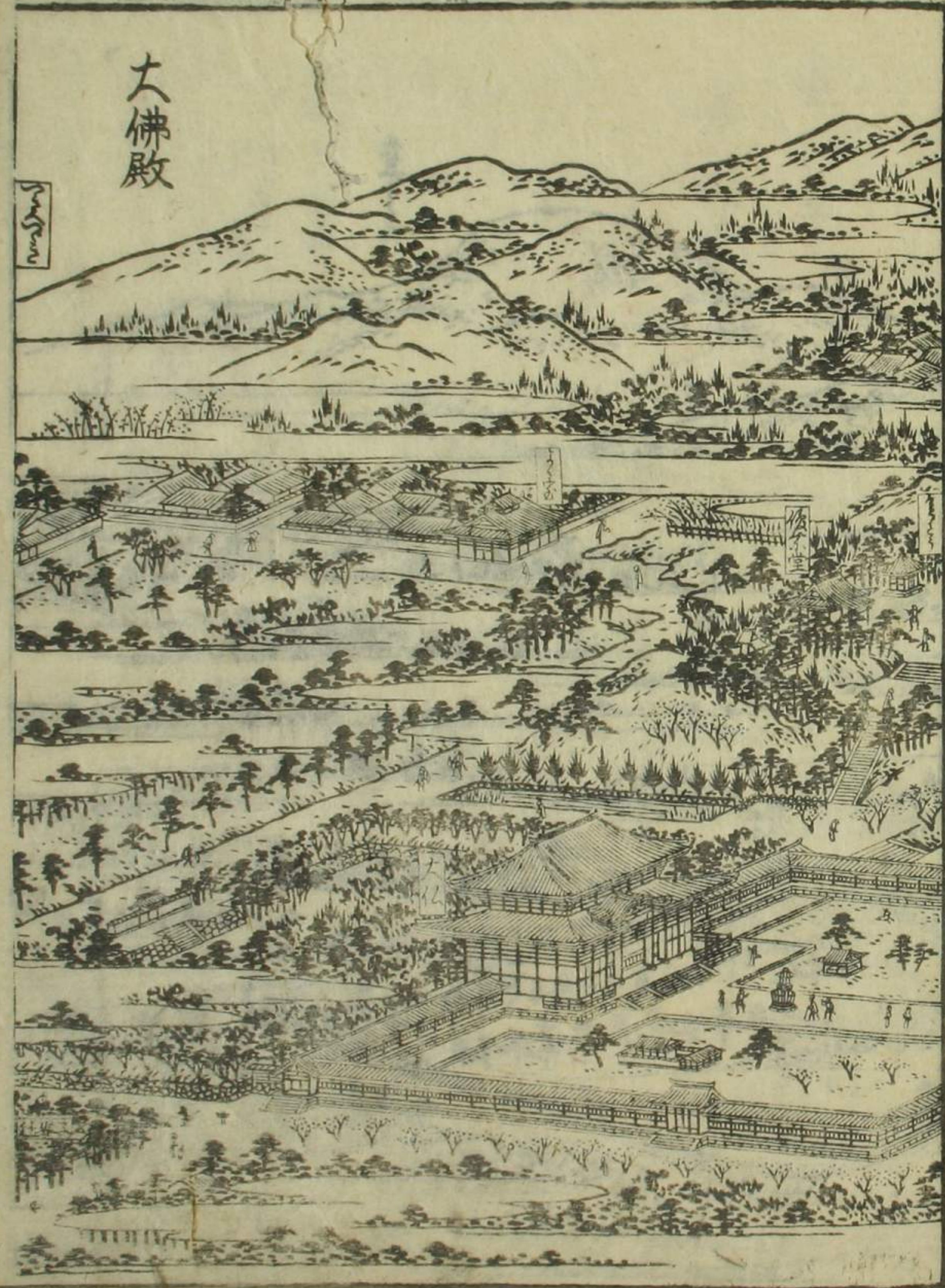
東大寺
南大門
鎮守
幡宮

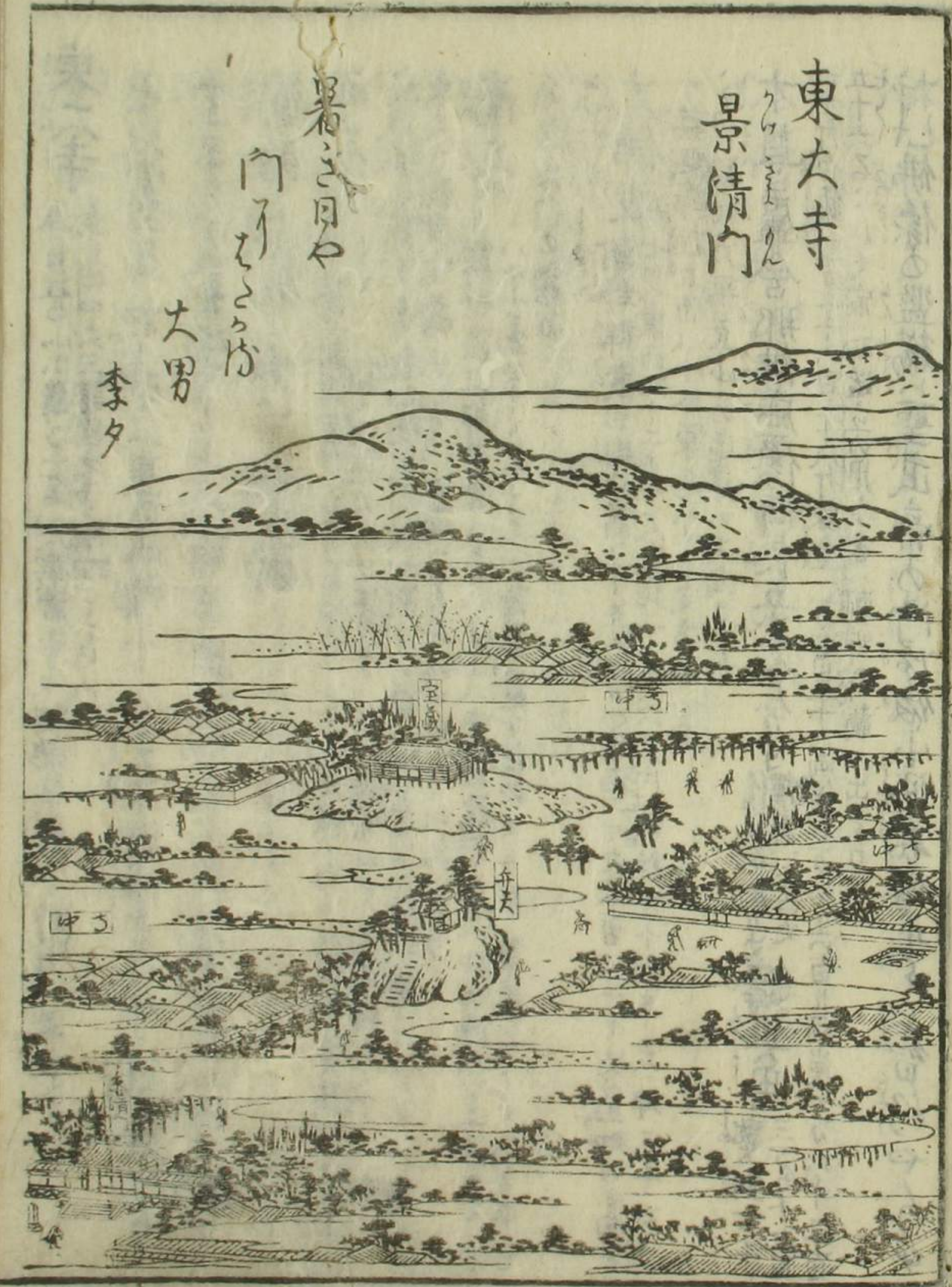
東南院
御宮

石

石

石





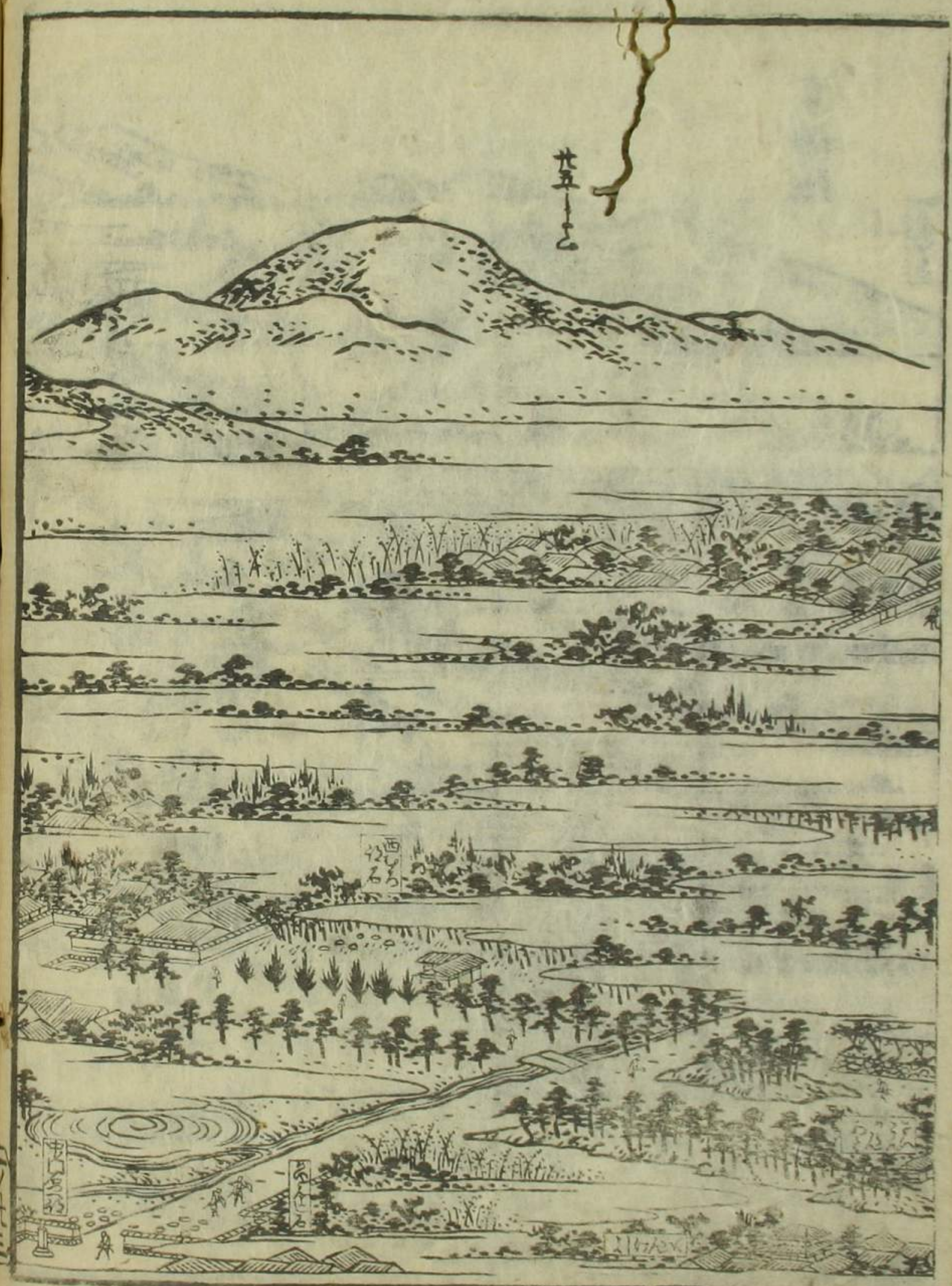
東大寺
景清内

暑之日々

門了りてく

大男

李夕



廿五

東大寺

春日社の小幡一名大華嚴寺又恒説華嚴寺佛法傳又國師寺又
金光明四天王護國之寺續日本紀

その當寺ハ聖武天皇の御願小天平勝寶年中小成就なり

宗名ハ宗兼學なりとて論華嚴とて本の鹿野香石竹小眠り

鸞の金桃の詠ひの給孤園もいつなり

西大向

平城趾跡考曰東大寺ある門とま井坂あり俗にま井坂なり

額の額に梵天帝釈四天王の像と別し長八尺四寸五分は門額の額と書し

東大寺敷屋玉藏あり門の礎を井坂のをりに出たり

南大門 額に弘法大師の尊なりといふ東南院寺勝一代の所門主也なり

大佛殿 朝野群載曰殿の高と十五丈六尺東西と二十九丈有北と十七丈基礎の高と

十蓋廻廊柱五百八十本東と西と八十五向も小百向なり

本尊盧舍那佛座像御長五丈五寸續日本紀鑄書具用三万九千五百

六十斤白錫一万二千六百三十八斤練金一万四百三十二斤銅五万八千六百九十四斤炭一万六千三百

斤なり佛像の監觸ハ聖武帝の佛湯像小良各僧平と智仍やんの

ある人ありたりある夜大皇佛はみありけり小僧其の生りて

の僧も佛法修りに法天の思ひと發し流汝川小りり時備信か

してばつり得ず其時大皇の法守と彼僧の志願と憐れしと

えをせり僧の志願と憐れしと彼僧の志願と憐れしと

の君今日域の主とり僧正其時の僧ありと佛後佛後命しと後大佛

佛造堂の佛志願あり書ましり右大長橋に勅使しと七伊賀天照大神

宮小寺像造立の佛祈願あり又豊足國守佐八幡宮小勅使なりれ

本紀お社の神託叙也小叶ひと天平十五年十月乙丑に國紫香樂宮

みて盧舎那の大像はしり冷んと行基僧止勅とけ天下

の士庶に勸進と其發願の疏帝の老者を深々大寺乃

僧みがはとる者樂を奏し骨柱を建て大像の模を搦み門の

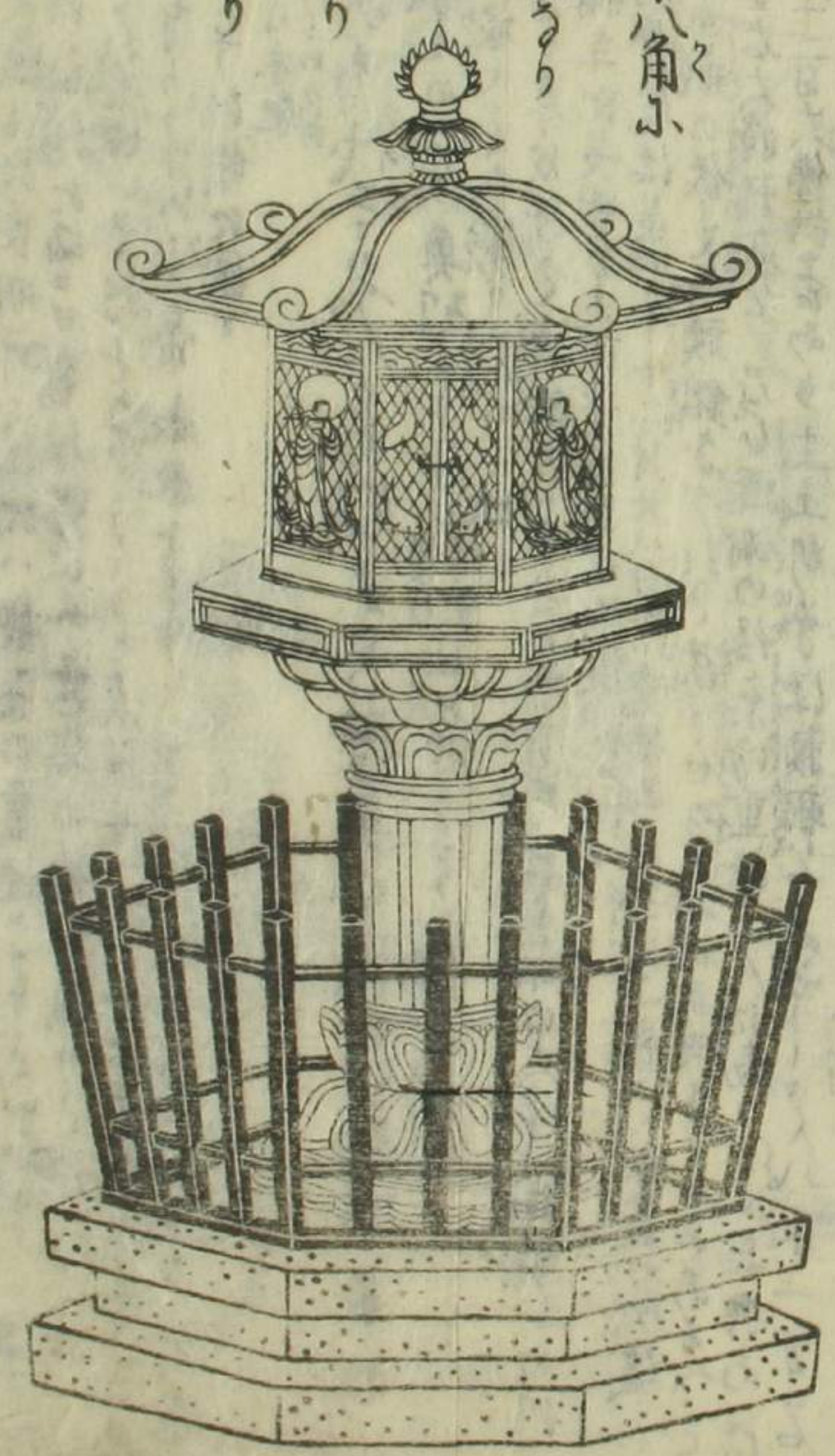
繩を引てあらんとしりと同十七年四月あの郊小遷寺

成る本紀同八月更大像を鑄るを御門佛衣の被し土

分包と清彦公築せしむる氏の人の同一中と清彦とてつる朝新
同十八年十月聖武天皇元正上皇光明皇后金鐘より成
大像の供者あり佛の前後小一万五千七百余の燈の
婆羅門僧正咒願師の基僧正と我々一東家初より八ヶ
鑄朝新遂天平勝宝元年十月其功未載成就と同年四月
開眼供者あり後日道師の菩提僧正咒願師の道濟律師隆尊
濟師の延福と我々一帝王編年
の導師九僧の方に應じたるものありつるは延福と我々一
と小宗の法師の被り只百所の風よつたけに異ありは
それをしてや思ひかん禪權禪と云ふ花禪と云ふつたけに
異あり禪王
雲平の釋迦の清彦に契て真如朽せしをてんつたか
迦見禪衛小とも小宗一甲並ありと文殊のみほをみつるが波羅門

大佛殿前金銅燈爐圖

宋陳和卿が方八角小
鑄る金燈爐あり
四面に佛像
四面に獸形あり
銘の銅柱小あり
別記の書を



柱小あり

龍仁院の慶上人再興の志願に奉じて勅命を蒙り、寺縁を勤く大佛殿を再興せしもの佛殿なり

大佛の脇土九觀世音 赤良法眼技慶京師法橋定實兩化 右虚空藏 赤良法眼技慶京師法橋定實兩化

原慶同法眼を慶西化教會院 赤良法眼技慶京師法橋定實兩化 増長天 赤良法眼技慶京師法橋定實兩化 廣目天 赤良法眼技慶京師法橋定實兩化

信吉者進 持國天 赤良法眼技慶京師法橋定實兩化 廣目天 赤良法眼技慶京師法橋定實兩化

多門天 赤良法眼技慶京師法橋定實兩化 信吉者進 赤良法眼技慶京師法橋定實兩化

安室の像 赤良法眼技慶京師法橋定實兩化 持國天 赤良法眼技慶京師法橋定實兩化

鐘樓 赤良法眼技慶京師法橋定實兩化 廣目天 赤良法眼技慶京師法橋定實兩化

蘭奢待 赤良法眼技慶京師法橋定實兩化 廣目天 赤良法眼技慶京師法橋定實兩化

廣文記曰赤良の諺小日暫へ東大寺形へ平等院 赤良法眼技慶京師法橋定實兩化

蘭奢待 赤良法眼技慶京師法橋定實兩化 廣目天 赤良法眼技慶京師法橋定實兩化

鐘樓 赤良法眼技慶京師法橋定實兩化 廣目天 赤良法眼技慶京師法橋定實兩化

廣文記曰赤良の諺小日暫へ東大寺形へ平等院 赤良法眼技慶京師法橋定實兩化

俊兼堂

俊兼堂 俊兼堂 俊兼堂 俊兼堂 俊兼堂 俊兼堂 俊兼堂 俊兼堂 俊兼堂 俊兼堂

念佛堂

念佛堂 念佛堂 念佛堂 念佛堂 念佛堂 念佛堂 念佛堂 念佛堂 念佛堂 念佛堂

良辨校

良辨校 良辨校 良辨校 良辨校 良辨校 良辨校 良辨校 良辨校 良辨校 良辨校

名蓮の系極あり

名蓮の系極あり 名蓮の系極あり 名蓮の系極あり 名蓮の系極あり 名蓮の系極あり

名蓮の系極あり

名蓮の系極あり 名蓮の系極あり 名蓮の系極あり 名蓮の系極あり 名蓮の系極あり

名蓮の系極あり

名蓮の系極あり 名蓮の系極あり 名蓮の系極あり 名蓮の系極あり 名蓮の系極あり

名蓮の系極あり

名蓮の系極あり 名蓮の系極あり 名蓮の系極あり 名蓮の系極あり 名蓮の系極あり

名蓮の系極あり

名蓮の系極あり 名蓮の系極あり 名蓮の系極あり 名蓮の系極あり 名蓮の系極あり

名蓮の系極あり

名蓮の系極あり 名蓮の系極あり 名蓮の系極あり 名蓮の系極あり 名蓮の系極あり

名蓮の系極あり

名蓮の系極あり 名蓮の系極あり 名蓮の系極あり 名蓮の系極あり 名蓮の系極あり

名蓮の系極あり

名蓮の系極あり 名蓮の系極あり 名蓮の系極あり 名蓮の系極あり 名蓮の系極あり

名蓮の系極あり

名蓮の系極あり 名蓮の系極あり 名蓮の系極あり 名蓮の系極あり 名蓮の系極あり

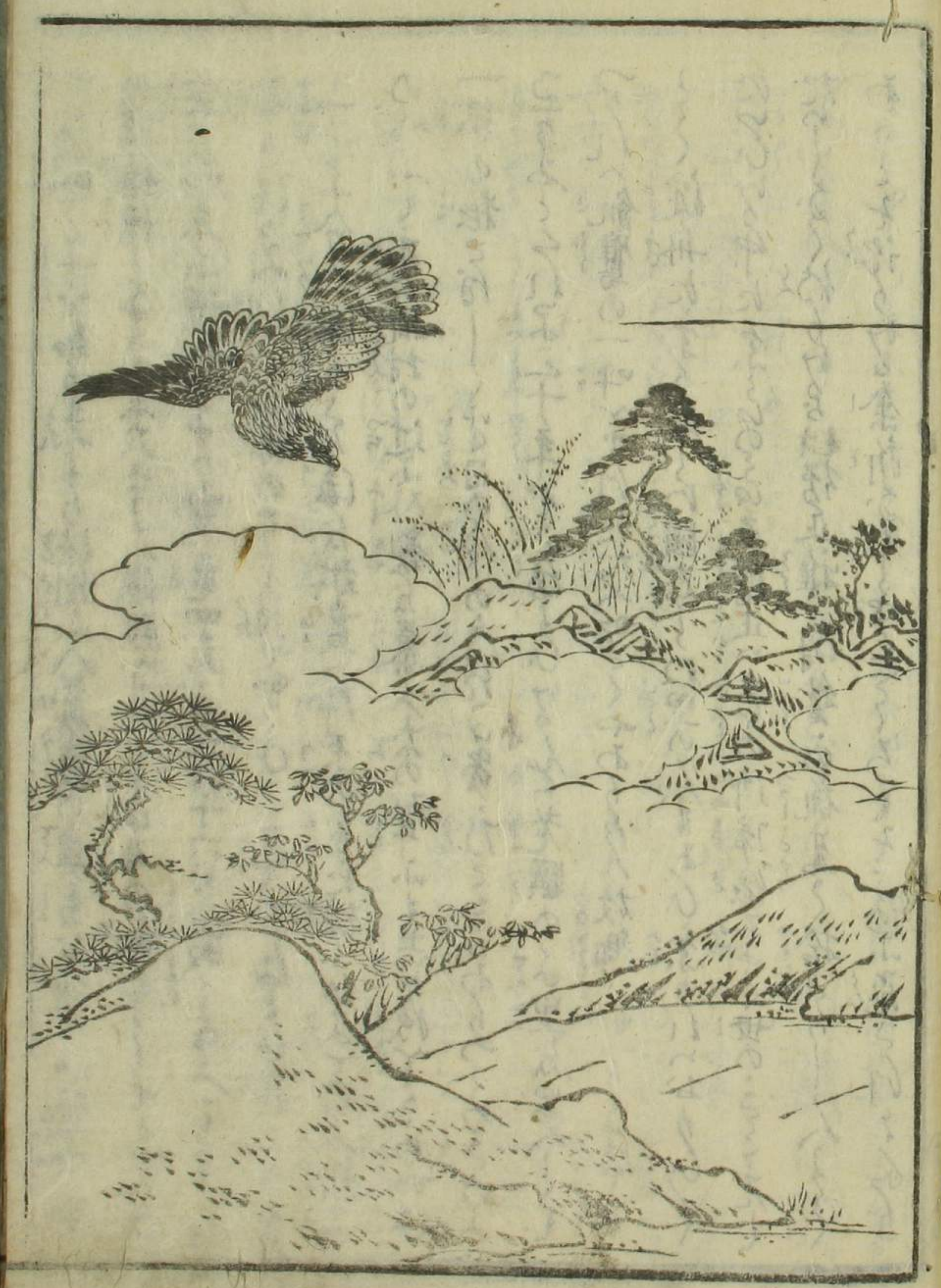
名蓮の系極あり

名蓮の系極あり 名蓮の系極あり 名蓮の系極あり 名蓮の系極あり 名蓮の系極あり

名蓮の系極あり

名蓮の系極あり 名蓮の系極あり 名蓮の系極あり 名蓮の系極あり 名蓮の系極あり

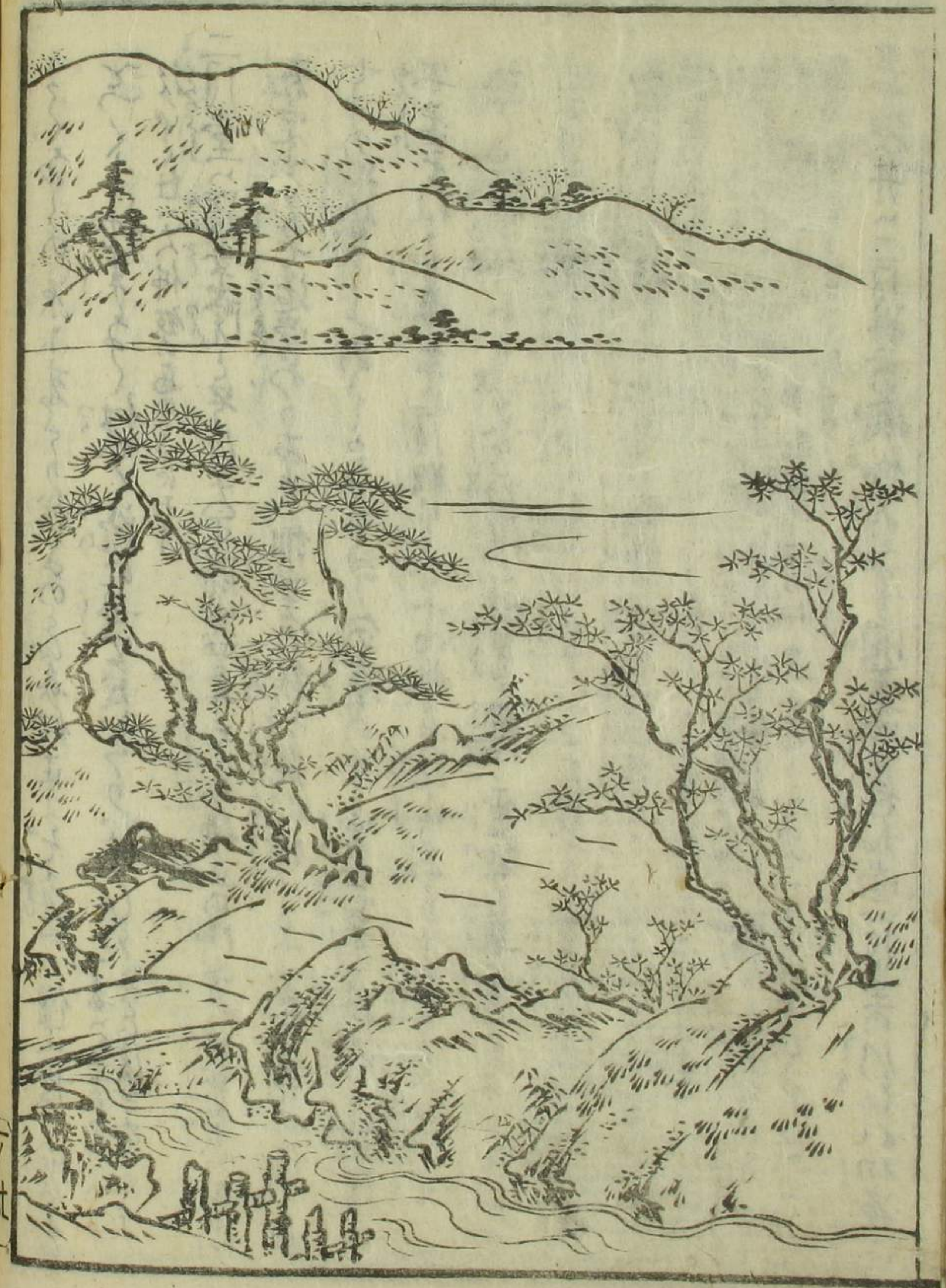
良辨僧正初の名
 令託人といふ
 執金剛神の像に
 本より一尊
 後漢彌陀側
 石小より王城
 向し 金輪聖王
 天長地久の
 其聲遠く敷
 遠く 宗を
 儂く 皇居を
 天皇性
 勅使に遣
 令託人といふ
 一尊といふ

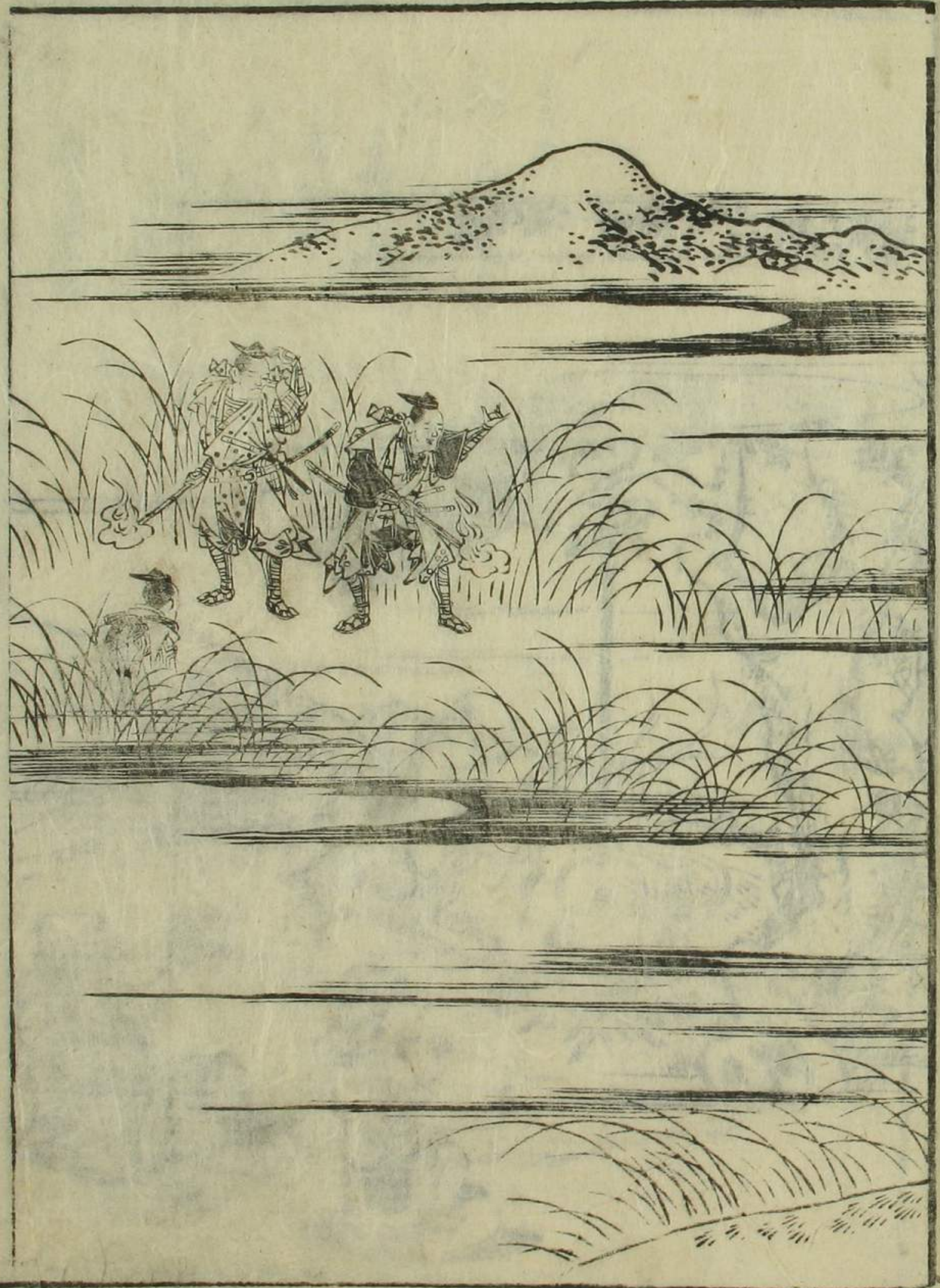


一、八圓十と知りまより法相小入美巖の奥有公海多し聖武帝
の瑞依僧とあり東大寺大佛殿などもその勸によりて平
室宇四年小僧正とあり寶龜四年十一月十六日入寂一々入るも
然るのほろみりしは母のそ一月とありしはよひに我しる
公治小分入跡々る海に紙書一紙系の名に依りしよとあり
のつ小も夜孤村の過小親なる氣入大の聲小も共に依りし
一筆の糧をばしし日の今のうけるもたそとありしはよひ
ころやとありしよ二十年ぞとありしは老驥の子里なるも
つれい飢鷹の一呼とありしはたたくやありしは放郷にありし
とく流舟にありしは國志しぬ里のふもあひ系たりありし
にいつる中にふりしは多僧正の帝の御瑞依原く世のこええ
たやふくゆりけりしは僧止推とありしは松の楓まき拾りし
ありしは語りける余所がうすにるもそとありしは

とくありしは系小ありしは我子のよも僧正とありしは
とくし化業とありしははくはに母とありしは
二月堂の須索院とありしは平勝室四年良多僧正の御才子實忠和尚
勅定よりて造営ありしは御世を特別冠波浦より十一面大悲の像長
七寸の洞像とありしはあつとありしはの唐のや實忠是と感得し吉田院小
安室をいりしは毎年正月朔日より十日目を法会あり十五日の後堂と
於て涅槃會ありしは又孝親院の時日本國中靈驗の尊像とありしは
に二月堂の親なる肉身ありしはせめしはと大親なる實忠和尚補陀洛の
觀音の幼法とありしは七石ありしは懺悔の法ありしは佛法通記小ありしは
當堂は法美の兵火に燬れしは又寛文七年二月の回祿とありしは
歴のつとありしは東大寺の傍にありしは大親なる煙中た立ありしは
法のつとありしは巨木ありしは像のありしは除よりしは聖武天皇
の御聖經光明の華嚴經牛王の印ありしは小ありしは當堂の
若狭井に二月堂の庭伽ありしは實忠和尚二月堂のつとありしは

漢拾巻
 日向山
 ねこ
 じゆ
 成ね
 ふと散
 ちのりみち
 中原師光の景





葉平の舟
 葉平の舟は二条の舟か
 ねとみく平の舟より
 あゝの故衣へかゝ
 せりけの程ふゆせと
 正徳天皇國徳大納を
 けのなごとしてとり
 ぬくまゝとんと多
 くの人々かか
 りいけりことと
 し世おぼへまじこ
 中こいひを今ふい
 ちを月舟の中に
 めるふりり
 のこら野と
 かぞへ入らん
 けりこまり



水後古
 神子ひろ
 心く代と
 十喜きと
 右ひや
 成り
 あつ
 山はた
 月
 長原光俊

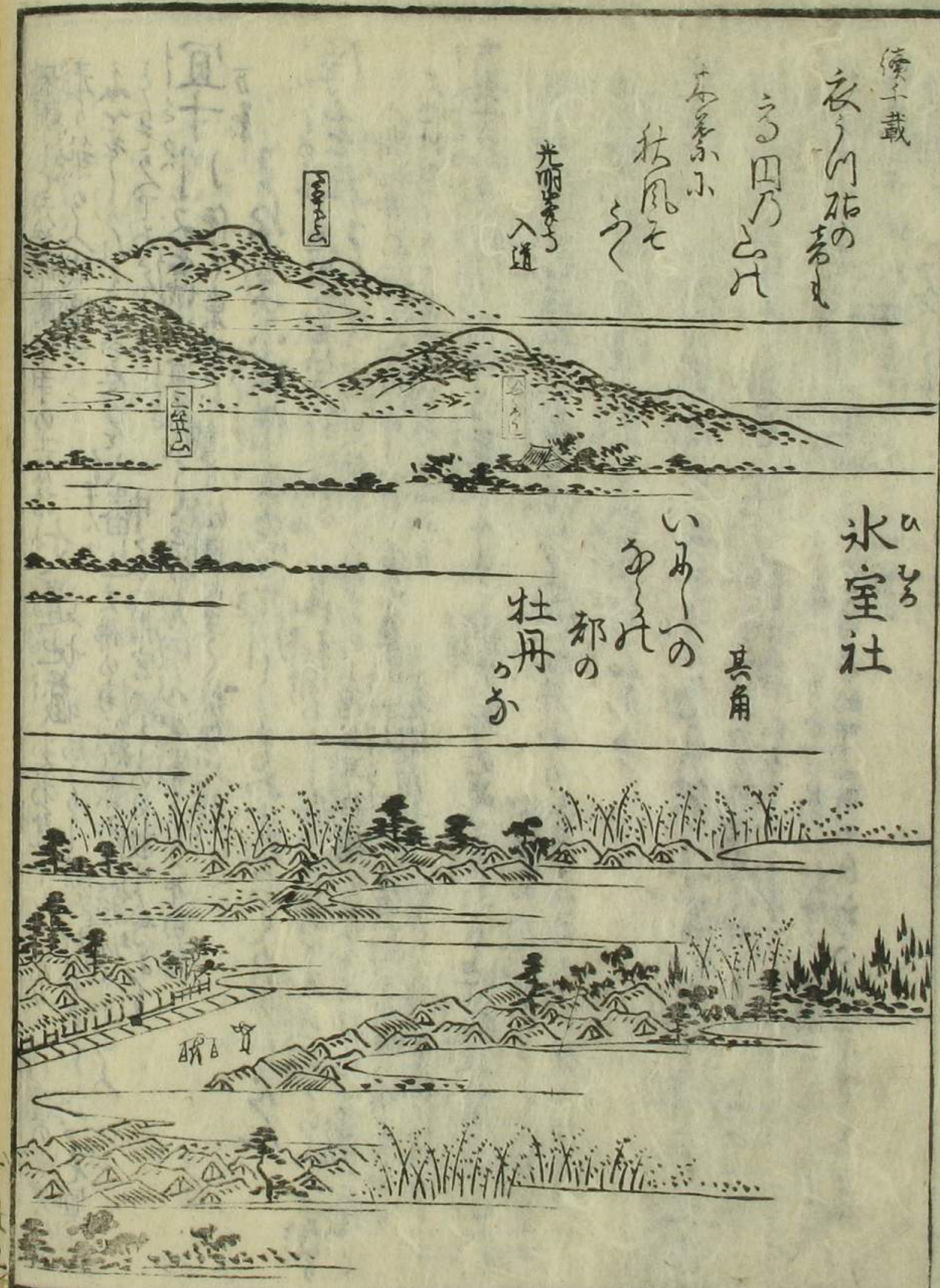
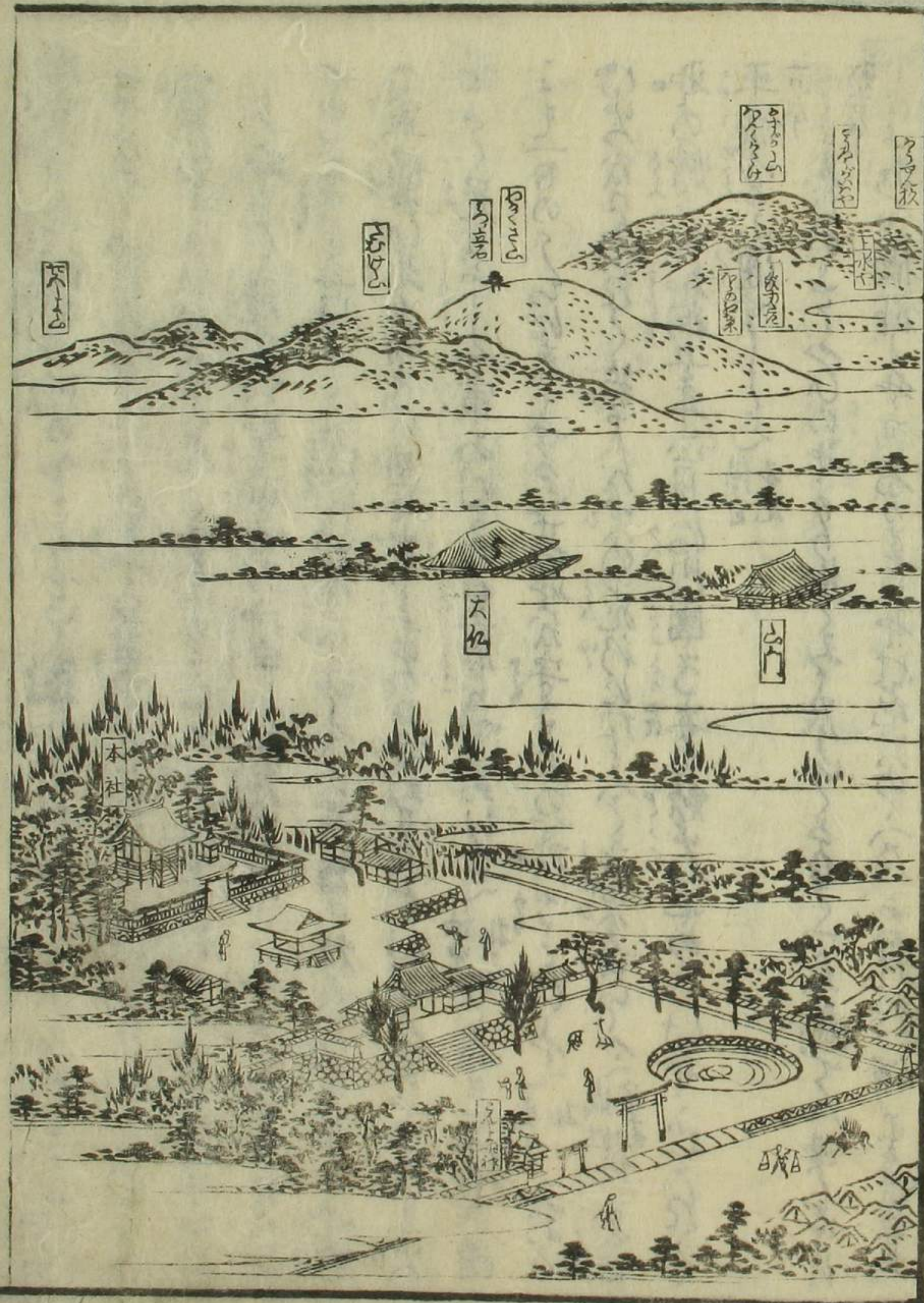


勅封倉東大寺の寶藏之庫との和漢の寶器等の中々名者
 二種あり一稱は蘭奢侍と號と聖武帝の清時異國より歸りて名者
 將軍家天下を創る時當りて修造しけり名者又四路に例定利尊氏公に
 一寸切給ひ織田信長公一寸八分切給ひ勅使日野大納言實定卿を井
 大納言雅教卿を遣ひて慶長七年六月十日に命じけり勅使勸修寺
 唐橋殿柳家殿と稱しけりしは名者切給ひて本名ゆくに成りて名減せり
 此一種は紅塵と稱し又鴨毛殿といひあり東大寺法皇の時唐土
 より歸りて大蔵に當りて法華を著す其間十五冊光明皇太后御
 系統の時左右の引續けしこと又神武帝より孝謙帝よ
 至りて代々下信の巻に一曲あり其外記より小深原あり
 云武と廿五所といふ 法兼年中大佛殿再建の時精進寮の通廿五人あり
 とせり今院の上院の空海より弘法大師の建立の洞内に石佛の地蔵あり
 坊内に遺跡あり 空海より弘法大師の建立の洞内に石佛の地蔵あり
 劍塚 東大寺の創る時法皇と法皇の御影を奉りて奉る者あり
 戒壇院 聖武帝の時 鑑真和尚 (廿四)

梁朝の五梁郡灑院寺の王は坊
 来り樂の戒壇
 一かきせりんれそ其そをいし幡池
 とりてくあなる

文遺地蔵 北佛の南の洞に小あり後此地を名に御早七圓土
 幡池 大佛の南の洞に小あり後此地を名に御早七圓土
 延室記曰は神宗の初めと麻社と立しりて後り

宣寸川 又者城川宜寸川といふ
 一万余 伊く東大寺の遠り法蓮に至り依保川は入
 一万余 伊く東大寺の遠り法蓮に至り依保川は入
 浮老祠 延室記曰は神宗の初めと麻社と立しりて後り
 浮老祠 延室記曰は神宗の初めと麻社と立しりて後り
 真言院 弘法大師の遺立ありて則大師の御像あり也藏其菩薩を小所
 管王の化之若無畏三藏の極なり 爾伽井あり 小日本に流りて 釈と云ふ人あり
 護法若神守護小立ありて足りありあり
 東南院 聖寶尊師の建立之荒廢小なり 龍松院を廢上人再建
 りて壯嚴なる義あり 住宣此院あり神護景雲二年に流りて此社の
 氷室社 遺記曰は同流神より西小ありあり新の社中に仁徳天皇天皇太子右
 春日の俗人神樂の奏は氷室の 駕上より小なるあり



漢ノ載

衣ノ石の

る田乃

枯風

光明

入道

氷室社

其角

いみ

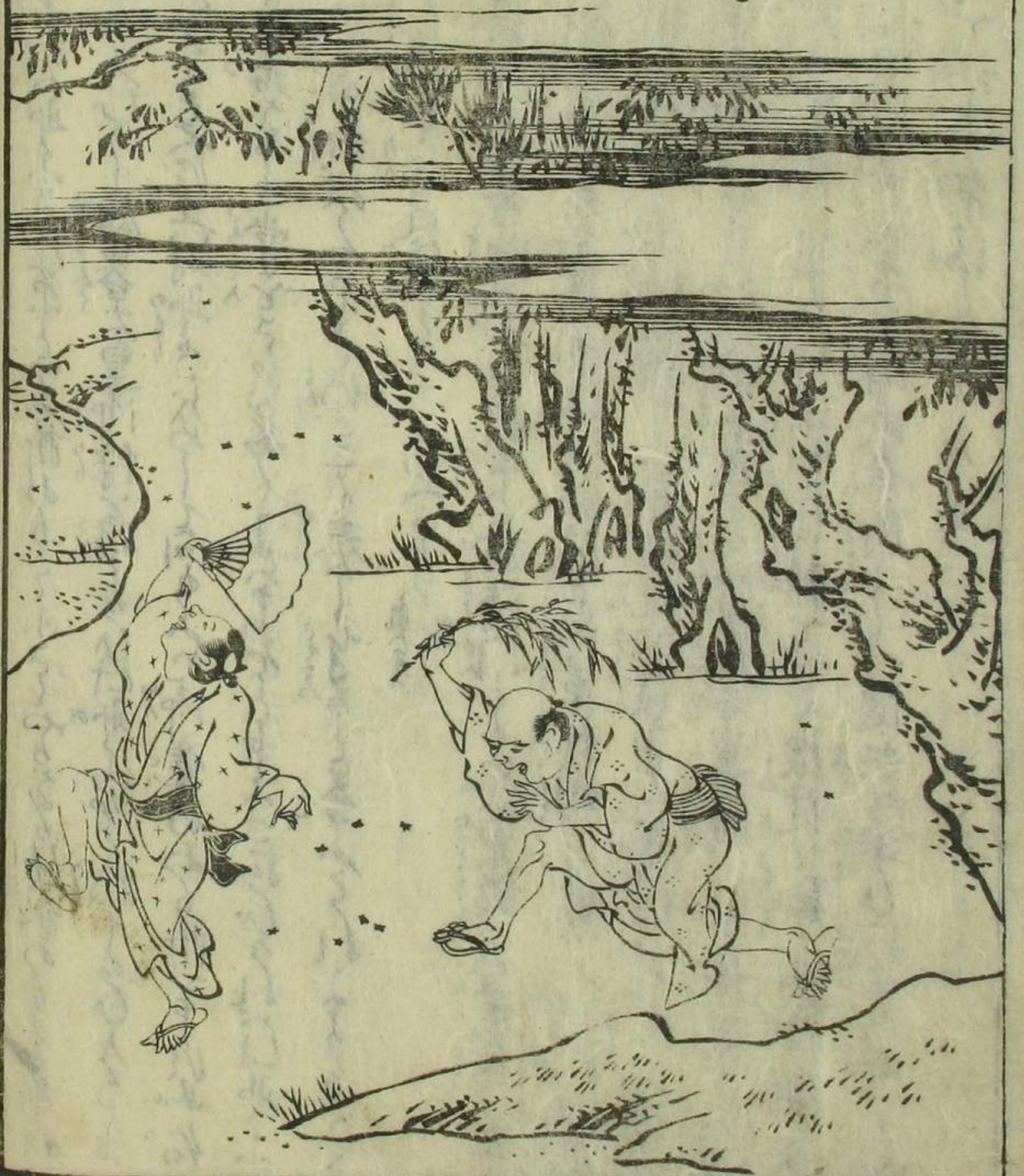
牡丹

都の

おけ
 空雀
 飛火の
 神子
 物々
 見えよ
 玄裡

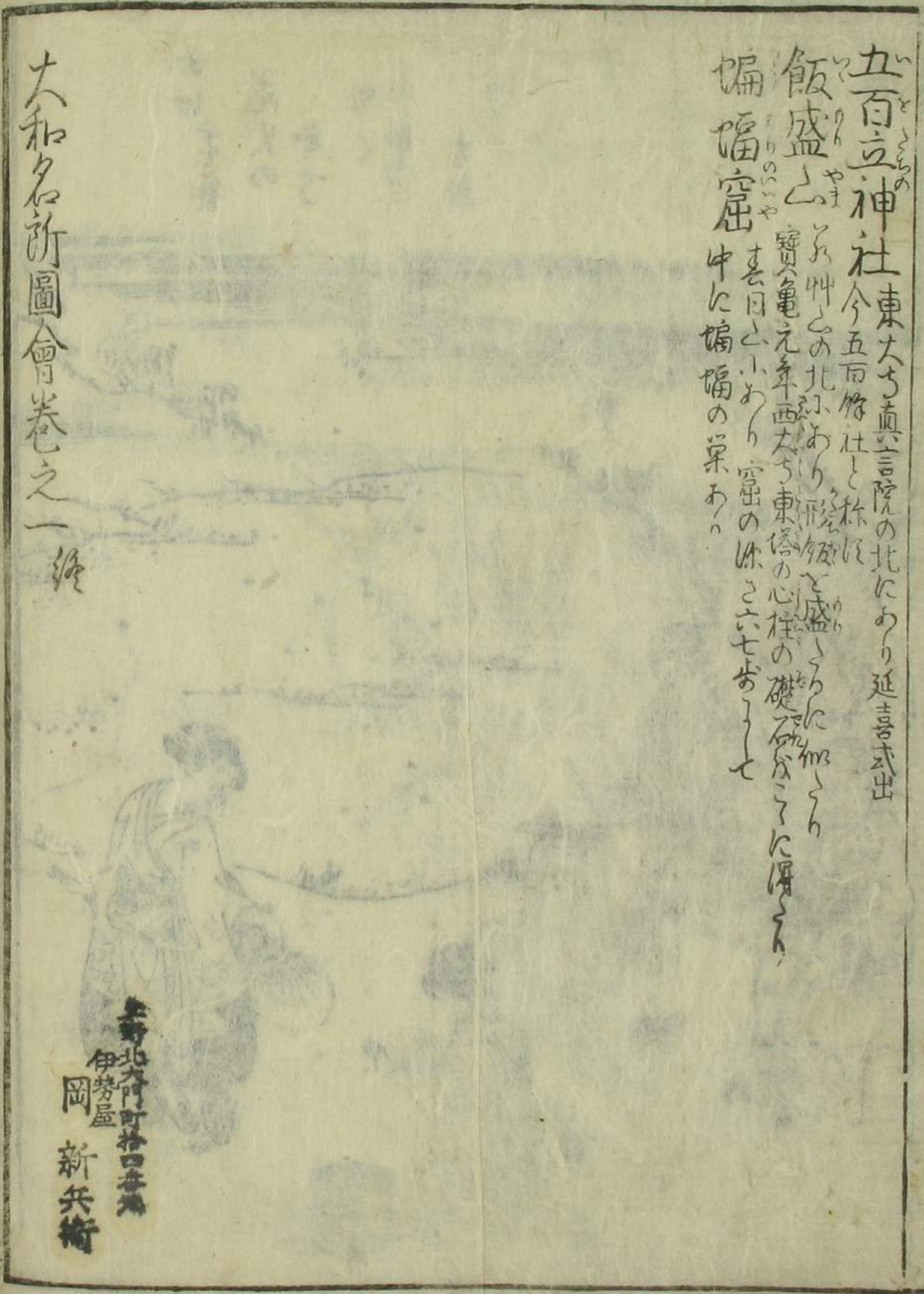


風雅
 いま一の
 神子れ
 さま
 ねんて
 さんい
 よこの
 量
 かり
 寂蓮法師



五百立神社 東大寺直言院の北にあり延喜式出
 飯盛山 今五百立社と称す
 寶龜元年西大寺東塔の心柱の礎石をここに遷す
 堀堀窟 中々堀堀の築あり

大和名所圖會卷之一 終



上野北河町拾四番地
 伊勢屋
 岡 新兵衛

樂天堂

佐藤了齋

藏書